

国際交流レター

International Exchange Letter

2002 vol.24

学園創立60周年記念号



C O N T E N T S

巻頭言	1	交 流	16
熊本学園大学学長 坂 本 正		2002年交流往来一覧 国際交流スナップ 学生座談会 地元学校との交流	
TOPICS	2		
創立60周年記念式典 第12回留学生弁論大会ほか			
学園創立60周年に寄せて	4	元留学生の声	23
ジェフリー・ギャンプル モンタナ州立大学学長 Dr. Geoffrey Gamble, President, Montana State University ジョージ・デニスン モンタナ大学学長 Dr. George M. Dennison, President, The University of Montana 愼 克 範 大田大学校総長 謝 維 信 深圳大学学長		マックスウェル・カウデン Maxwell Cowden 岡本 勇樹 吉田 有紀 ハリー・オルソン Holly Olson 劉 眞 福	
熊本・モンタナ姉妹提携 20周年に寄せて	8	派遣留学生体験記	26
トーマス・トレボン キャロル大学学長 Dr. Thomas J. Trebon, President, Carroll College		岡部 淑子 University of the Incarnate Word (アメリカ サンアントニオ市) 江頭 祐子 Saint Mary's University (カナダ ハリファックス市) 上之原 俊介 UNITEC (ニュージーランド オークランド市) 田内 敬子 大田大学校 (韓国 大田広域市) 枝村 邦昭 広西師範大学<熊本市派遣> (中国 桂林市)	
教員交流	9		
香川 正俊 商学部教授 羽江 忠彦 商学部教授 金 禧 秀 大田大学校教授 (韓国) 吴 遵 杰 深圳大学教授 (中国) 冯 建 民 深圳大学教授 (中国)			
研修団	14	DATA	31
研修団DATA 大田大学校学生間交流体験記			

「国際規格の職業人の育成に向けて」



熊本学園大学学長

坂本 正

本学が国際交流に熱心な大学であることを県内外に改めて印象づけたのは、2002年5月30日に熊本学園創立60周年記念行事の一環として開催された、環太平洋9大学学長シンポジウムであった。本学の海外交流大学であるアメリカのモンタナ州立大学、モンタナ大学、キャロル大学、インカーネットワーク大学、韓国の大田大学校、中国の深圳大学、北京第二外国語学院、ヴェトナムのヴェトナム国家大学ハノイ校から学長をお招きし、「21世紀における大学教育の展望」を基調テーマとして報告と議論が交された。また、翌日の5月31日に記念国際学術コンファレンスを本学で開催した。このように学長シンポジウムを成功裡に実施することができたのも、また、海外交流大学との国際的なパートナーシップを一層強固なものとするのができたのも、これまでの本学の国際交流の伝統と実績によるものである。

本学は、1942年の東洋語学専門学校開設以来、脈脈と引き継がれた「世界に目をむけた教育」の伝統を推進しているが、1982年アメリカ・モンタナ州立大学等諸大学との姉妹校提携以来、現在、欧米、アジア、オセアニアなど9カ国20大学との本格的な国際交流活動を展開し、この20年間で多面的な国際ネットワークを築いてきた。その成果の上にもいまグローバル時代に対応できる、国際規格の職業人の育成に向けさまざまな取り組みを行っている。

国際規格の職業人を育成するには、次のような視点で教育の充実を図る必要がある。

- (1) 授業において社会が直面している課題に即して事例研究を行う際、討論やプレゼンテーション等を積極的に取り入れ、物事の多面的な理解と総合的な洞察力を涵養させ、高い倫理性と責任感を持って判断し行動できる能力を育成する。
- (2) 自らの文化と世界の多様な文化に対する理解の促進を図る能力を育成する。
- (3) 外国語によるコミュニケーション能力を育成する。
- (4) グローバルな視点で、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信する能力を育成する。

以上のような、国際規格の職業人を育成するためには、学生が「私は…」の一人称で自分の考えを述べ、指導にあたる教員が海外に向けて情報を「発信」する中での相互のパートナーシップの形成が鍵となる。その一環として、海外交流大学との連携と学術交流により、国際的な教育の充実をさらに推進したい。そのためにも、今後も国際交流委員会が企画・実施する留学・研修プログラムが充実・発展することを祈念し、国際交流レターの巻頭言としたい。

◇学園創立60周年

2002（平成14）年に熊本学園は創立60周年を迎えた。1942（昭和17）年4月に東洋語学専門学校として発足して以来、約7万人もの人材を送り出してきた。

5月30日午後より「環太平洋9大学学長シンポジウム」が開かれ、海外姉妹大学・交流大学のアメリカのモンタナ州立大学ジェフリー・ギャンブル学長、モンタナ大学ジョージ M.デニス学長、キャロル大学トーマス J.トレボン学長、インターネットワード大学ルイス J.アグニースィ学長、韓国の大田大学校愼克範総長、中国の深圳大学謝維信学長、北京第二外国語学院李翠霞副院長、ベトナムのベトナム国家大学ハノイ校ダオ・チョン・ティ学長と、本学の角松学長（当時）が報告と議論を行った。

祝賀会は同日、各界・学園関係者およそ700名が出席し、潮谷義子熊本県知事が祝辞を述べた。

また、翌31日には60周年記念国際学術コンファレンスがキャンパスにて行われ、海外からはアメリカのモンタナ州立大学クリフ・モンテイン教授とシツキー・カラハン教授、イギリスのリバプールジョンモーズ大学マーティン・パーネル教授、韓国の大田大学校金宣根教授、中国の深圳大学莫世祥教授、ベトナム国家大学ハノイ校レ・ヴァン・カイン教授が「グローバル化と地域の多様性—共生の時代に向けて」というテーマで報告を行った。

他に交流協定校の大田大学校林用哲理事長、李義澤対外協力室長やベトナム国家大学グエン・ヴァン・ロイ外国語学長、キャロル大学シャーリー・ペーカー女史ら、海外より30名の来賓が60周年記念式典に参加した。



環太平洋9大学（海外姉妹大学・交流大学）学長シンポジウム



祝賀会



国際学術コンファレンス



◇北古賀理事長に大田大学校から名誉経済学博士の学位授与

「本校との活発な交流活動で本校の発展及び韓日両国の友好増進に寄与された功労が顕著で、本校大学院の学位授与規定により名誉経済学博士の学位を授与する」として、北古賀理事長に対し大田大学校の愼克範総長から学位記が5月30日付けで贈られた。

◇第12回外国人留学生弁論大会

董 琰さん“最優秀賞”と“オーディエンス賞”のW受賞

本学に在学する外国人留学生在が、日本での留学生活の中で感じたことや、考えさせられたことなどを日本語で発表する「外国人留学生弁論大会」が、平成14年6月22日（土）午後、学生会館4階多目的ホールを会場に、学生、市民ら約100名の聴衆を集めて開催された。

今年で12回目を迎えた同大会には、6カ国11名の留学生在が参加し、滞在期間の長短に関わらず出場者全員が、流暢な日本語で熱弁をふるった。留学者のなかには、弁論終了後に愛用のギターを取り出し熱唱する一幕も。

審査の結果、中国と日本の少年犯罪を比較しながら問題提起した中国の留学生在董 琰さんが最優秀賞に選ばれ、さらに聴衆者投票による“オーディエンス賞”も獲得し、W受賞に輝いた。

また弁論大会終了後には留學生をはじめ、教職員、審査員らが参加し7号館教職員食堂で茶話会も行なわれた。



賞	氏名	出身国	所属	弁論テーマ
最優秀賞・オーディエンス賞	トウ 董 琰	中国	国際経済学科3年	甘い社会
優秀賞 (内容部門)	イ 李 ヒョン 燦 珍	韓国	東アジア学科4年	「近くて遠い国」を「近くて近い国」に
優秀賞 (日本語部門)	ソウ 曾 レイ エイ 麗 穎	中国	経営学科3年	抹茶とウーロン茶、そして文化
優秀賞 (技術部門)	メリッサ サリナス Melissa Salinas	米国	英米学科4年	日本の悪い言葉
努力賞	グエン ティ タイン トワイ Nguyen Thi Thanh Thuy	ベトナム	経営学科3年	着物とアオザイ
	アンドレ パーソンズ André Parsons	カナダ	英米学科4年	君の思い出
	ウ 子 莹	中国	経営学科1年	温泉
	クォン イル フン 権 一 訓	韓国	国際経済学科4年	International Friendship
	アリソン ピット Alison Pitt	カナダ	英米学科2年	アニメマニア
	ミョウ 苗 カク 鶴	中国	経営学科4年	国際交流の花を咲かせましょう
	ヴィヴィ アリサンディ Vivi Arysandy	インドネシア	国際経済学科3年	人生はジェットコースター

◇地元 TV 局番組の取材

本学国際交流会館に入居している留学生在がテレビ熊本の取材を受けた。

これは、同局の番組「若っとランド」の Reporter が各家庭を訪ねて昼食をごちそうになるというもので、今回は熊本学園大学国際交流会館の留學生たちが昼食を作った。韓国料理やベトナム料理が盛りだくさんで、おいに盛り上がった。

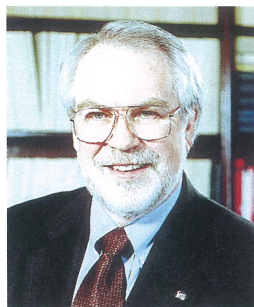
【放映日：平成14年11月3日（日）】



モンタナ州立大学ボーズマン校

(1893年創立)

Montana State University - Bozeman



ジェフリー ギャンブル 学長

1893年に創立。モンタナ州ボーズマン市にあり“ボブキャッツ”のニックネームで親しまれている大学。農業、芸術・建築、経営、教育、工学、文理、看護など多彩な学部を擁している。学生数は約11,800名。1,170エーカーにもおおよび、広大なキャンパスが特徴的。

熊本学園大学創立60周年に、モンタナ州立大学の皆を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

これまでの20年にわたる交流において、熊本学園大学の皆様は、数々の素晴らしいやり方で、本学の多くの学生や教職員の人生に影響を与えてくれました。本学から留学した多くの学生たちには、熊本学園大学での忘れられない思い出がたくさんあります。数えきれないほど多くの友情が芽生え、今もずっとその友情が大切に育まれていることも存じ上げております。貴学との交流によって、本学の学生の文化的かつ知的な視野は大いに広がりました。学生たちが貴学で学んだ日本語を、今でも身につけている事を願って止みません。もちろん、教員や職員も、両大学間の交流プログラムを通して、日本での生活や教育や研究などの素晴らしい機会を得る事が出来ました。貴学がこれまで長年我々に示してくださった寛大なご親切に、心から感謝を申し上げたいと思います。また、熊本学園大学の学生や教員、職員の皆様をモンタナ州立大学にお迎えし、キャンパスや家庭、そして自然の豊かなモンタナ州の恵みを分かち合えてきた事を光栄に思っております。今後とも、熊本学園大学との交流が末永く続くことを祈念いたします。

これまで貴学が成し遂げられてきた業績を考えますと、本学との素晴らしい交流プログラムもまだほんの一部に過ぎないと思われまふ。改めて、創立60周年のお祝いを申し上げます。今回の貴学の記念祝事は、私にとって大学がいかなるものかを改めて考えさせられる機会となりました。大学というものは、通常キャンパスの中を占めておりますが、それは単なる建築物の集合体ではありません。大学とは、教員や学生や職員たち各個人の教育や学習や研究や奉仕によって、長年苦勞して積み上げられた、いわば知識の巨大なさんご礁のようなものであります。このように考えますと、60年間のご努力によって貴学が築き上げられてきた知識の建造物がいかに素晴らしいものであるか、容易に認識できます。熊本学園大学創立60周年という素晴らしい業績に、心よりお祝い申し上げます。そして、今後共、貴学の益々のご発展をお祈り申し上げます。



April 22, 2002

Dr. Masao Kadomatsu
President
Kumamoto Gakuen University
2-5-1 Oe Kuimamoto, 862-8680
Japan

Dear Dr. Kadomatsu:

I write on the occasion of Kumamoto Gakuen University's 60th anniversary to convey my congratulations and that of the entire Montana State University community.

Over the twenty years of our exchange activities, you have touched the lives of so many of our students, faculty, and staff in many wonderful ways. I know that the dozens of Montana students who have studied at KGU have indelible memories of their time with you. Hundreds of enduring personal friendships have been built which I know are still cherished by them. You helped our students to considerably broaden their cultural and intellectual horizons. Let us hope that they also still have some of the Japanese language that they learned from you. Of course, our faculty members and staff have also had wonderful opportunities to live, teach, and do research in Japan through the exchanges we have conducted. I sincerely thank you for all the generosity that you have shown us over the years. In return, it has been our honor to share our campus, our homes, and our treasured state of Montana with your students, faculty, and staff. We at MSU look forward to many more decades of exchanges with our friends at KGU.

However, I want to congratulate you for much more than these wonderful exchange programs with MSU, because they represent only a small piece of your accomplishments. This leads me to reflect on what a university is. Although a university typically occupies a campus, it is not just a collection of buildings. A university is more like a vast coral reef of knowledge, built up over time by the individual acts of teaching, learning, research, and service of its faculty, students, and staff. Viewed in this way, think what a wonderful edifice of knowledge you have created during the 60 years of your labors! Congratulations on the wonderful achievement of your 60th anniversary, and we at MSU hope that KGU prospers in the years ahead.

Sincerely,

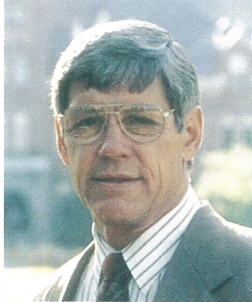
Jeffrey Gambler
President

Office of the President
211 Montana Hall
P.O. Box 172420
Bozeman, MT 59717-2420
Telephone (406) 994-2341
Fax (406) 994-1893

モンタナ大学ミズーラ校

(1893年創立)

The University of Montana - Missoula



ジョージ デニス 学長

1893年創立。モンタナ州立大学と双壁をなす歴史ある州立の大学。教育、芸術、経営、森林、ジャーナリズム、法学などの学部を擁し、学生数約12,000名。



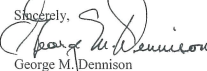
Office of the President
The University of Montana
Missoula, Montana 59812-3324
Office: (406) 243-2311
FAX: (406) 243-2797

On behalf of the faculty, staff, and students of The University of Montana, I extend warm greetings and congratulations on the occasion of the 60th Anniversary of the founding of Kumamoto Gakuin University. Much has changed over the course of six decades, and the University has grown and matured as it has responded to the needs of its students and faculty. The collaborative exchange relationship that has bound our two Universities together for the last two decades has helped immensely to broaden the perspectives of the students and faculties of both campuses. Those who have participated in the variety of exchange programs continue to value the friendships they have made and speak highly of the hospitality extended to them.

The 21st century will present new challenges and opportunities in an increasingly interdependent global society to those of us involved in higher education. Any among us who had envisioned an easy transition into a new world order found themselves rudely disabused of that notion by the events of 11 September 2001. Tragic in their impact, those events underscored the need for international exchange and collaboration to enhance understanding and peaceful cooperation rather than hostility. The history of international exchanges reveals their contributions. Rather than retreating from the global issues, we must find ways to resolve them rationally and peacefully to the benefit of all peoples.

We of The University of Montana have long since recognized that our students will live and work in a world much different from the one we knew as young people. Because of instantaneous communication made possible by the new information technology, educators have a heightened responsibility to prepare young people to use that technology for the improvement of the conditions of all peoples. The lesson of 11 September reveals the vulnerability of all countries, however long established and well endowed. As we should have known all along, we will not have the safe, secure, productive, and meaningful lives to which we all aspire unless we make certain that all peoples have reasonable access to those desired goals as well.

We believe firmly that citizens of the world will increasingly choose to pursue their lives under democratic self-governments within a global free market. However, despite this emerging convergence among peoples of the world in the ways they choose to govern themselves and conduct their economic affairs, there remains enormous diversity of cultures, languages, traditions, and beliefs. We believe this diversity a critical value for the global society, one that all of us must work to preserve at all costs. Homogenization will not serve any group or people well. All will benefit from the richness that diversity assures. Educators must take action to prepare people for life and work in a diverse world. This makes language and international study, intimately tied to an international experience, imperative to facilitate the development of a global perspective as a necessity rather than a luxury. To that end, we must remain ever diligent to identify new ways to enable and empower our faculties and students to experience other cultures directly.

Sincerely,

George M. Dennis
President
An Equal Opportunity University

このたび熊本学園大学では創立60周年を迎えられ、モンタナ大学の教員、職員、そして学生を代表しまして、心からお祝いを申し上げます。60年の間には社会情勢等大きく変化してきましたが、貴学におかれましては、創立から今日まで、学生や教員のニーズに応じながら成長し発展を遂げられてきたことと存じます。この20年間における貴学との協力的な友好関係は、両大学の学生や教員の視野を広める機会として、非常に重大な役割を果たしてきました。各種の交流プログラムに参加した者は、築き上げてきた友情関係を貴び、暖かいもてなしを受けたことを大変感謝しております。

21世紀という時代は、より相互依存を必要とするグローバルな社会となり、高等教育に携わる我々にとっては、新たな挑戦やチャンスが与えられることなのでしょう。新しい世界の体制へ難なく変遷がなされるものと考えていた我々は、2001年9月11日のニューヨークの同時多発テロ事件によって、その安易な考えが誤りであることに気づかされました。この事件の衝撃は悲しむべきものではありませんが、敵意というものより相互理解と平和協力を高めるための国際交流や協力の必要性を強く認識させられるものでありました。国際交流の歴史は、とりもなおさず、お互いの国への貢献を示すものであります。このような人類全体に関わる深刻な問題から手を引くのではなく、むしろ我々全員に恩恵をもたらすような、合理的で平和的な解決方法を積極的に見出してゆく努力をしなければならないのです。

モンタナ大学では、現在の学生たちが我々の若い時に考えていたようなものとはかなり異なる世界に生きて働くことになるだろうと、ずっと以前から認識していました。最新の情報工学によって瞬時にコミュニケーションが行えるようになり、あらゆる人々の生活条件を改善するために、若者たちが情報工学を利用できるように指導することが、教育者にはこれまで以上に強く求められることとなります。9月11日の教訓は、どれほど長期にわたって安定し豊かな国であったとしても、つまり、いかなる国においても、そのような悲劇は起こりうることを示しています。当然のことですが、全ての人がそれぞれ望む目的に到達するための納得できる方法があると確信できないならば、我々が皆望んでいるような安全で精神的な安らぎのある実りの多い有意義な生活はできないのです。

世界の市民が、グローバルな自由市場経済下の民主主義の自治国家において、ますます個人的生活を追い求めることは間違いありません。しかしながら、自治行政を選び、各国が経済問題を処理するという点において、世界中でこのような現象が集中しているにもかかわらず、文化、言語、伝統そして信仰などにおいては依然として非常に大きな多様性を残しております。グローバル社会にとって、この多様性は、一面で批判的な価値を持っているとしても、我々はいかなる犠牲を払ってでも守るべきものであります。逆にこういったものの等質化は、結局は我々の目的には合わないことになるのです。多様性から生み出される豊かさによってこそ、我々は皆、恩恵を受けられるのです。教育者は、こうした多様性のある世界で、人々が生活し働くことが出来るように指導を行わなければならない。これが、言語や国際研究をより緊密に国際経験と結びつけ、奢侈ではなく不可欠なものとして、グローバルな見地の発展を促すために非常に重要となるのです。そうした目的のためには、教員や学生が異文化を直接経験できるように、我々は有意義な新しい方法を見つけ出すよう常に努力しなければならないでしょう。

大田大学校

(1980年創立)

Daejeon University



愼克範 総長

1980年に創立の私立大学。文学、法経、理科、工科、韓医科などの学部とともに、大学院や付属病院などを持つ。学生数約11,000名。大田広域市にある静かな環境の広大なキャンパスに、本館、教室棟、学生会館などの各種施設がある。

DAEJEON UNIVERSITY

International Cooperation and External Affairs

96-3 Yongsu-dong, Dong-gu, Daejeon 300-716, Korea
Telephone(042)280-2125,2126 Fax(042)272-8553



대전대학교


熊本学園大学 創設 60周年 祝辞

일본 사학의 명문 熊本学園大學 開校 60周年 記念日を 맞이하여 敎育학원 대전대학교의 전 교직원, 학생 모두를 대신하여 축하의 인사를 드립니다.

귀 대학이 『時代와 地域을 承揚하는 大學』이라는 캐치프레이즈를 걸고 창립된 이래 지난 60년동안 많은 인재를 배출하여 일본과 세계의 발전에 기여한 공로에 경의를 표하며 아울러 대전대학교가 귀 대학과 1985년에 교류 협정을 체결한 이후 많은 교수·학생의 인적교류와 학술교류를 활발히 추진하여 세계화 시대 인재양성과 양 교의 발전에 크게 기여할 수 있게 된 것을 매우 자랑스럽게 생각하며 깊은 감사를 드립니다.

21세기 세계화 정보화시대 귀 대학과 대전대학교간의 교류가 더욱 활발해지고 양 교간의 우의가 오래오래 지속되길 바라며서 귀대학 北古賀 勝幸이 사장님을 비롯한 角松 正雄학장님, 교직원 여러분의 견승과 熊本学園大學의 무궁한 발전을 기원합니다

2002. 5. 30

大田大學校總長 
哲學博士 愼克範

熊本学園大学創立 60周年記念祝辞

日本、私学の名門である熊本学園大学の創立60周年にあたりまして、恵和学園大田大学校の学生及び全教職員を代表して、一言お祝いの言葉を申し上げたいと思います。

貴大学が『地域に根ざした教育、世界に目を向けた教育』とのキャッチフレーズをかかげ、創立以来、数多くの人材を各界へ送り出し、日本と世界の発展に寄与された功勞に対して心から敬意を表します。

大田大学校は1985年、貴大学と姉妹関係を結んで以来、今年で15人目となる交換教授の交流をはじめ、教職員の相互訪問、長短期の学生の交流などといった人的交流と大田と熊本で一年ごとに開かれる学術交流を活潑に推進して、世界化時代の人材養成と両校の発展に大いに寄与できたことを誇りと思いながら、また深い感謝の言葉を申し上げたいと思います。

21世紀の世界化・情報化の時代におきまして、貴大学と大田大学校との交流が一層活発になり、両校の有効と親善が長くひきつがれる事をお祈りいたします。

北古賀勝幸理事長をはじめ、角松正雄学長、そして教職員のみなさまのご健勝と熊本学園大学のさらなるご発展をお祈りして私の挨拶と致します。

本日は誠にありがとうございます。

2002.5.30

大田大学校

総長 愼克範



謝維信 學長

1983年に創立。広東省深圳経済特別区の総合大学。経済、管理運営、文学、法学などの学部を有する。本科生、専科生を合わせ学生数は5,000名を超える。中国の経済特区・深圳に247エーカーの広大なキャンパスが広がる。年間を通して亜熱帯気候で、香港に隣接しており、新興都市として発展をみせる。

祝 賀

今年是中国外交正常化三十周年にあたり、かつ貴校の創立六十周年を迎えることになり、私は深圳大学の全員を代表しまして、心よりお祝い申し上げます。

1987年12月に熊本学園大学と深圳大学が姉妹大学として締結して以来、一致協力のもと、学術交流活動は積極的に行われ、教師及び学生の交換プログラムも順調に発展しています。世界経済と教育のグローバル化に伴って、両校間の交流協力はもっと豊かな果実を結ぶに違いないと私は信じております。貴校との幅広く奥深い交流協力がより一層発展してゆくことを期待致します。

貴校のご繁栄、ご隆盛のほどを心からお祈り致します。

深 圳 大 学

地址：深圳市南山区 邮政编码：518060 电话：6536114（总机） 传真：6534462

贺 信

熊本学園大学校長
角松正雄閣下：

今年正逢中日友好邦交正常化三十周年，又迎来熊本学園大学六十周年校庆，我谨代表深圳大学全体师生，并以我个人名义向阁下以及贵校的全体师生致以最诚挚的祝贺。

熊本学園大学与深圳大学自1987年12月建立姐妹学校关系以来，在双方的共同努力下，两校的学术交流积极活跃，教师及学生交换项目进展顺利。我相信，在世界经济全球化，教育国际化的进程中，贵我两校的交流合作必定取得更加丰硕的成果。我们期待着与熊本学園大学多层次，多领域，更广泛的交流与合作。

祝熊本学園大学事业兴旺发达，桃李满天下。

深圳大学校長 謝維信

二〇〇二年五月三十日

深圳大学

學長 謝維信

二〇〇二年五月三十日

キャロル大学

(1909年創立)

Carroll College



トーマス トレボン 学長

1909年創立のローマ・カトリック系私立大学。学生数は約1,400名。モンタナの州都・ヘレナ市の小高い丘の上であり、周囲の恵まれた自然環境に調和する美しいキャンパスが自慢。

熊本学園大学

親愛なる教職員および学生の皆様へ

アメリカ合衆国モンタナ州ヘレナ市のキャロル大学第14代学長として、今年は熊本学園創立60周年記念式典に参加させて頂き大変光栄に存じております。この喜ばしい式典は、モンタナ州と熊本県の姉妹提携およびキャロル大学と熊本学園大学の姉妹大学20周年記念というさらなる重要な意義を持つ機会となりました。

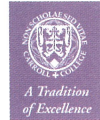
何年にもわたり、キャロル大学とヘレナ市は熊本との提携を通して非常に素晴らしい恩恵を享受してまいりました。熊本を訪れ熊本学園大学で勉強したキャロル大学の学生達は、啓発され、豊かになり、刺激を受けて帰ってまいりました。熊本での経験のおかげでこの学生達の多くが、学問や職業の分野において成果を収めてきております。キャロルに来た熊本の学生達は、常にキャンパスに溶け込み、理想的な学生像を示し、ここでの共同生活を高めておられます。私たちが共有する熊本学園大学の学生気質や文化的な財産は、キャロル大学のキャンパスやヘレナ市のすべてに活気のある生活を与えてくれました。様々な点において、ヘレナに滞在する熊本の学生達は、私たちの小さな田舎町を世界に結び付けてくれています。

熊本学園大学の皆様と共に、キャロル大学も、国際協力や相互の敬意や暖かい友好関係、そして深い文化理解を育んできたモンタナと熊本との姉妹提携20周年を心からお喜びいたします。私たちの協力的なパートナーシップは、いかに国境を越えて環境や社会的背景の異なる者同士が互いの平和と繁栄において共存を果たすことができるのかという一つの模範を示しているのです。

敬具

CARROLL COLLEGE

Office of the President



November 1, 2002

Members of the Administration, Faculty, Staff, and Student Body
Kumamoto Gakuen University
Kumamoto, Japan

Dear Colleagues:

As the fourteenth President of Carroll College in Helena, Montana, USA, I was privileged this year to join in the celebration of Kumamoto Gakuen University's 60th anniversary. The event was a joyful occasion made even more significant because of the joint 20-year anniversaries of Montana and Kumamoto Prefecture's sister-state relationship and Carroll College and Kumamoto Gakuen University's sister-school connection.

Over these many years, Carroll College and Helena have enjoyed tremendous benefits through its Kumamoto ties. Our students who have visited Kumamoto and attended Kumamoto Gakuen University have returned enlightened, enriched and inspired. Because of their Kumamoto experiences, many of our students have succeeded in extraordinary academic and professional endeavors. Kumamoto students who have come to study at Carroll have continually proven themselves ideal campus citizens and enhanced community life here. Your students' character and the cultural treasures they share with us make our campus and all of Helena a more vibrant place to live. In many ways, Kumamoto students in Helena connect our small, rural town to the world.

With you, Carroll College rejoices in this 20th anniversary of Montana's sister-state relationship with Kumamoto, which has fostered international cooperation, mutual respect, warm friendship and profound cultural understanding. Our cooperative partnership stands as an example to the world of how different people from disparate backgrounds living across the globe from each other can live together in peace and prosperity.

Sincerely,

Thomas J. Trebon, Ph.D.
President, Carroll College

1601 North Benton Avenue • Helena, Montana 59625-0002 • (406) 447-4401 • FAX (406) 447-4555

キャロル大学

学長 トーマス トレボン

深圳からの帰国だより

商学部教授 香川 正俊

【2001年9月から半年間交換教員として中国深圳大学に派遣】



授業風景

交換教員として深圳大学に滞在したのは本年3月2日～8月30日までの半年間であった。深圳市には1986年～87年に政府開発援助のFS（可能性調査）のため約半年間行ったことがある。その時、深圳市人民政府及び国務院交通部のカウンターパートと一緒に開学3年目を迎えた深圳大学の門前を通ったが、「あ、大学があるんだな」程度にしか思わなかった。大学に無関係だった当時の私には、見渡す限りの荒地に真っ白な建物がドンと建っていたという記憶しかない。熊本学園大学に赴任した後、深圳大学と交換教員制度があると聞き「縁があるのかな」という気がしたものである。

5年前、深圳大学附属研究所との共同研究のため、短期間に著しく発展した深圳市を再度訪れ同校の構内に初めて入ったが、深圳大学も大きく拡張されており、通訳として同行した同大出身の中国人留学生さえ余りの変化にびっくりしていた程である。

中国を内側から見る事ができた今回の滞在期間中は、新たな発見と貴重な体験の連続であった。広範な中国人民の素朴な生活と現代的文化の混在、同国における高度経済成長の光と

影、それに伴う各種の矛盾等々である。深圳大学はその縮図のようにも思えた。

同大学では一部富裕層の子弟を中心とする本科生、内陸部出身者が多くを占める農民・労働者の子弟としての聴講生及び国家と深圳市への貢献を目的に教授する教職員達がさまざまな協力と対立を包含した共同生活を営んでいる。聴講生と本科生は別々の寮に分けられ、同じ大学の敷地内に居住する教職員達の本科生本位の教育が行われているのである。

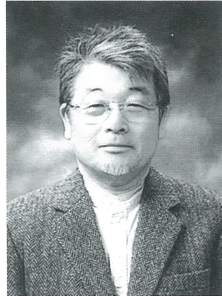
私は文学院日本語学科で「日本語会話」（2年生）と「日本事情」（3年生）を担当した。学生は概して非常に勉強熱心である。2年生でも日本語力は相当なレベルで、3年生になるとかなり難解な用語も理解できる。日本語学科の「方針」は単なる日本語教育に徹し、日本の政治・経済・社会情勢等を重視していないと思われ、「日本語会話」は椅子が足りないほど盛況な反面、「日本事情」は20人に満たなかった。しかし後者を履修した聴講生を含む学生は特に勉強意欲と向学心が強く、しっかりした人生観と将来の目的を持っている。貧弱な教育環境ではあるが、無限の可能性を秘めた発展途上国の強みなのかも知れない。

湿度が85～95%にも達する「蒸し風呂」状態の中でも汗をかかない人々に混じり、タオルを首にぶら下げて歩く汗まみれの私は奇異に映ったことだろう。しかし、望郷の念にかられたことはほとんどなかった。深圳大学の皆さんと交流し、中国人の考え方や市民生活を見て得た新たな発見と体験はそれ程貴重であったと思う。

学びの主人公は学生だ

商学部教授 羽江 忠彦

【2001年3月から1年間交換教員として韓国大田大学校に派遣】



日本語講義担当だと思いこんでいた私は、「日本文化比較論」(前期)、「日本学特論」(後期)担当だと、直前になって知ることになりました。大慌てで準備し始めました。しかし、片付けておかねばならない仕事に追われ、手元にある史資料を掻き集め、眼も、耳も、口も日本語のまま、テジョン(大田)大学校へと旅立ちました。

日語日文学科に進み、日本語、日本文学を学ぶことを選んだ4年生を中心に3年生が加わった30数人の受講生に、どんなことを学びたいか、その理由を尋ねることが、最初の出会いでした。その時、日本の学生の現状が脳裏をかすめ、懸念する気持ちが私になかったわけではありません。しかし、見事に、懸念は吹き飛ばされました。若者文化、伝統文化、マンガ文化、受験競争、徴兵制度のある韓国とそれが無い日本の若者、日本の都市と農村、歴史的な韓国・朝鮮関係そして現状、女性差別の現状と対策等々、彼らが考え、疑問をもつ問題が次々と出されました。次第に、「学びの主人公は学生だ」という現実が、ここにはあるという思いがふくらみ、喜びが湧いてきました。

次回から、学びたいテーマについて、噛み砕いて具体的に自分の考えを述べるように求められたレポーターと、質問や疑問を述べる受講生との討論に、私が絡む形で講義は進み始めました。正しい答えを教えてもらうことを待つ姿勢と、視点や視覚を変えて見えてくる複数の答え、その中の一つを自分の答えとして選び取り、そこからふたたび討論を始める姿勢とのちがいが、講義を重ねるにしたがい、鮮明に見えてきました。

前期講義は、「テジョン大生100人に聞く：近くて遠い韓国・日本」という聞き取り調査に取り組むことで最後を迎えました。八月末から始まる後期は、11月半ばに全学の学生、教員に公開される日語日文学科「学術祭」が予定されていました。日本語劇、日本のポピュラー・ソング、自作詩の日本語での朗読、そして研究発表が行われます。

研究発表は、「国際結婚に対する韓国・日本学生の意識」と題するテジョン大生と熊本学園大生を対象とした意識調査結果の報告とパネル・ディスカッションになりました。この発表は、韓日関係を国際結婚という場面でとらえてみようという、前期講義の受講生を中心に提案されたものでした。このために前期受講生に、後期受講生、学園大交換留学生3名が加わり、調査が行われました。陸根和日語日文学科長、来年度交換教授に予定されている朴喜南先生をはじめ、テジョン大の先生方、学園大の貞松茂、土井文博両先生を煩わせ、800人余りの学生から回答が得られました。発表は、東亜日報などで紹介される、思いもかけない反響に、学生たちは驚いたり、喜んだりでした。ここに到る間、後期講義は、質問の目指すところ、その背景となる韓日の実状などの討論の場となりました。「学びの主人公は学生だ」という私の思いを、目の当たりに見せてくれたテジョン大生に、喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

インドから始めて韓・朝鮮半島で終わる大日本帝国による侵略の跡をたどる私の旅は、まだ、終わっていません。交換教員となる機会に恵まれ、思いもかけず早くやってきた韓国で、若いテジョン大生に、こんな形で遇せられたことは、忘れようとして忘れることができない思い出になるでしょう。だからこそ、忘れようとして忘れることができない悔しい、腹立たしい、つらい思い出である少年時代を語られた愼克範総長の日本語の響き、テジョン駅市場の老婆のそれを重ねることを、私は忘れてはならないでしょう。

とんでもないこと

大田大学校 ^{キム ヒ ス} 金 禧 秀

【2001年3月から1年間交換教員として受入】

あちこち 語 録

金禧秀

日本へ来たのは約10日ほど前でした。子供たちが日本語教育を受ける小学校近所の市場(商店街)は、日本で初めて見る昔の市場なので興味を持った。国際交流センターの田中さんが黒髪小学校を案内しながら教えてくれた市場だった。子供たちが学校へ通う2日目もこの地理に慣れておらず、とても子どもたちだけで行かせることができなかった。夫婦で一緒について行くことにした。子供たちは勉強している間、私たち夫婦は勉強が終わるまで学校の前の市場を回った。新鮮な野菜や果物など、各種の食料品がいろいろ揃っていた。あちこち、いろいろな店の価格を比較しながら、初めて見る日本の食べ物をとても楽しく買い物した。

その内、子供たちの授業時間も終わり、子供たちと一緒に買い物しにまた市場に戻った。まず魚屋さんに入って、並んでいる名前も知らない魚を見ながら、珍しさを感じた。時々韓国で食べた魚もあった。市場の隅に行くとアワビみたいな物が目に入った。家族はアワビ粥をひどく食べたがった。しかし、大きさは小さかった。しかも、書いてある名前を見ても、どうしても分からなかった。じっと見た後、横にいるオバサンに「これはなんですか。」と聞いてみた。しかし、下手な日本語力では通じなかった。ちょうど、娘が電子辞典を持っていたので、早く辞典を取り出してアワビを調べてみた。「転覆」と書いてあった。電子辞典を見せながら、

「これですか。」と聞いてみた。しかし、これはどうしたことか!オバサンは急に驚いたようだった。我が家族が見てもアワビなのに。。。それではこれは何だ。いつのまにか家族の表情に緊張感が漂った。電子辞典には他の言葉は載ってない。何度も検索しても同じだった。「転覆」だけだ。しかし、これはどんな意味だろう。急ごうと思っ

た。急ごうと思っただけで、ハングルの下に載った漢字を見なかった。とんでもない間違いをした。「転覆」は車がひっくり返るという意味を持った単語だ。ハハハハハハ。。。韓国は「転覆」とアワビの読み方が同じでチョンボクと発音する。あのオバサンにこの文字は車がひっくり返るとの意味だと英語で説明した。今度はあのオバサンが英語で聞いてきた。「What do you want?」しかし、どうしたことか。答えたいが急に答えをすっかり忘れてしまった。また、緊張していた。しかし、落ち着いて「Is this for making soup?」聞いてみた。そうしたら、スープで食べたり、刺し身で食べたりするものだと答えてくれた。これはなんだ。アワビだったら買いたいけど。どう見てもアワビに違いないのに。。。それで、今度は小さなアワビですかと聞いてみた。また、間違った。とにかく買って、何度もありがとうと挨拶した。おそらくあのオバサンは変な人たちだと思っただろう。小さなアワビがなぜひっくり返るんだらう、と。

でも値段があまり高くないので10個ぐらい買って他に野菜や果物を買って胸がいっぱいになった気分であちこちを回った。家に帰ってすぐ広辞典で調べてみた。今日買ったものは韓国でオープンザギ(アワビの一種類)というものだった。とにかく夜ご飯はオープンザギの粥を食べながら、韓国では高いので、たまに食べられるものを本当に安く買ったと嬉しがっていた。

思い出す度に、我が家族は笑った。すでに1年という期間が過ぎて、帰国を目前にした今でもいろいろなすてきな日本の生活の思い出があるが、このとんでもない間違いは我が家族にとって一番忘れられない思い出である。この1年間、我が家族の食卓にはよくアワビの粥が登場した。もちろんこの事以後、他の市場で買ったアワビで、アワビの粥を食べる毎にみんなで笑い合い、面白い思い出になってしまった。



ご家族と(筆者は写真左)

熊本での半年間の生活

深圳大学 吳 遵 杰

【2001年3月から半年間交換教員として受入】

さくや、ゆめを見ました。熊本のゆめです。

熊本は日本の九州の中部にあります。2001年3月から9月までの約半年間に交換教員として熊本学園大学に滞在していました。

熊本市に到着したのは3月27日の夜でした。3LDKの家族用宿舎は、水前寺にあって附近にはJRの駅もあり、大変静かです。至るところにちょうちんがかけてあり、童話の世界のようです。

熊本学園大学のキャンパスはあまり大きくないですが、とても美しいです。印象的なのは立派な図書館、清潔な研究棟、交流センターのうしろの桜の木、とくにセンター職員たちの仕事にたいするまじめさです。

最も恩恵を受けたのは、宿舎の付近の小さな市場といくつかのコンビニエンス・ストアがあります。普段は、自分で簡単な中国料理を作ることができますが、作りたくない時には弁当を買って食べるのもたいへんおいしいです。もちろん、キャンパスの教職員用の食堂も大好きです。

4月の初めには、桜の花が満開です。たいへん美しいですね。中国で大学の日本語を教えてくれた先生はいつも「お酒を飲みながら花見をすることは人生の最高だ」と言っていました。今回は、この願望が実現しました。具体的な日時は忘れてしまいましたが、お花見のあの夜、西園寺先生、嵯峨図書館長ご夫婦、喬先生、田中室長、センターの皆様と私、一緒に熊本城の中でお酒を飲みながら花見をしました。たいへんごちそうさまでした。あの夜の月、桜並木、ほおをなでていた暖かいそよ風、永遠に忘れられません。それから数日後に、新入生歓迎ピクニックで阿蘇へ行きました。その時は、桜はすでに散っており、日差しを浴びてクスの若葉が輝き、真っ赤なツツジの花が新緑の中に燃え始めていました。

新しい生活がスタートしました。私の授業は商学部での「中国語」の科目でした。学生たちは中国語に少し興味を持っていますが、問題となるのは、私のあまり上手ではない日本語です。日本語での学生たちとの交流は不十分でしたが、クラスのなかには、私の授業から中国語に興味

を持つ学生もいるため、私は授業に力を入れました。

大学で過ごす時間以外は、常にひとりで水前寺公園へ遊びに行って楽しい一日を過ごしました。あるいは、図書館で論文の資料を集めていました。

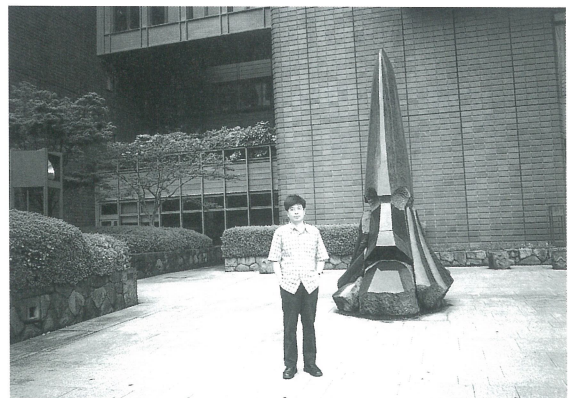
4月の初めから6月の初めまでの時期は熊本が一番いい季節です。それから間もなくして梅雨に入りました。この時期は気温が高く、湿度も高いので、とても蒸し暑く感じます。この点では深圳市とたいへん似ています。しかし、深圳市では一番長い季節は夏で、春と秋はたいへん短いです。冬はほとんどありません。熊本の四季ははっきりしています。

夏休みを利用して家内と一緒に九州ばかりでなく、北海道と東京などへ旅行もしました。札幌のきれいな風景を感じ、東京の高いビルに感心し、大分の最乗寺付近の緑に驚き、こけむした田舎の小道や雨に打たれる寂しい花の姿に感動しました。

いつの間にか9月の初めに入って、送別の時間になりました。永末先生、西園寺先生、西先生、蔣先生、センターの皆様にご温かく囲まれて盛大に送別の宴を開いていただき、誠にありがとうございました。

熊本での半年間の生活は、間違いなく私にとって貴重な財産となりました。両大学は長い距離があっても、教職員たちの友情は必ずやそれを越えて、いついつまでも続くことを信じて疑いません。

いつかもう一度熊本に行きたいと思います。



熊本市役所の前にて

忘れがたい熊本

深圳大学 ^{フォン ジェン ミン} 冯建民

【2001年9月から半年間交換教員として受入】

难忘的熊本

日本熊本の半年不知不觉就过去了，回想旅日的半年，很多难忘的的往事历历在目。

初到熊本，尽管语言不通，也不太适应日本的生活，但热情的国际交流中心老师们周到的接待，使我多少找到了一点“家”的感觉。熊本洁净的街道、井然有序的交通、遵守规则的市民也给我留下了深刻的印象。学园大学更以其独具风格的建筑、美丽的校园让我留恋忘返。

随着与日本朋友的增多，了解日本文化的机会也相应增加。来日之前，我就对日本的社团文化非常感兴趣，在日期间有幸参加了熊本学园大学的校友会、忘年会、以及“创价学会”的新年“十万人合唱”，通过半年来在日本的观感，对日本的团队文化有了非常深切的感受。

在这半年中，我利用假期走访了长崎、广岛、大阪、神户、京都等地，这些城市立体化的、四通八达的交通网络浑然一体，很好地解决了城市发展中的交通问题，非常值得中国城市管理者借鉴。

在日本各地，随处可以感受到现代化给人们带来的便捷，您不必为交通、咨询、服务等烦恼，但您也随处可见城市、人、与自然的和谐，熊本野鸭嬉戏的江津湖、东京近郊的鸟类保护园、以及高速公路旁的青翠的山林，都给人一种回归自然的感觉。这点值得我们学习和借鉴，如何在发展的同时，与环境和谐。

日本是个崇尚礼仪的民族，我处处可以感受到这点。无论是公寓的管理员、商店的店员、还是开车的司机都会对您彬彬有礼。

我想，不同的国家和民族需要相互交流和理解，只有相互交流，你才能发现彼此的优缺点，进而克服自己的弱点并学习他人的优点，日本有许多值得中国学习和借鉴的地方，特别在经济和管理领域。

我非常幸运有这样一次与日本朋友交流和学习的机会，同样也欢迎日本朋友到中国去与中国同行交流，感受一下发展中的中国，我愿为促进这种交流而努力，希望能在中

国见到大家！

最后，借此机会再次感谢熊本学园大学对我的接待、感谢所有关心我的朋友！

2002年12月30日 于深圳大学 冯建民

日本熊本での半年間は、いつのまにか過ぎ去ってしまいました。日本での半年間を振り返ると多くの忘れがたい出来事が目に浮かびます。

初めて熊本に着いた頃、言葉もままならず、日本の生活にもあまり慣れずにいましたが、それでも国際交流センター事務室の皆さんの温かく、行き届いたお手配などにより、私は熊本のなかに「私の家」を感じる事が多々ありました。熊本の気持ちのいい道並み、秩序を保った交通状態、また交通ルールを遵守する市民の様子など、私には非常に印象深いものでした。熊本学園大学の独特の風格をもった建物や美しいキャンパスも懐かしくも忘れがたいものとなりました。

日本の友人が増えてくるにつれ、日本文化を理解する機会もだんだんに増してきました。来日以前、私は日本の様々な層での集団的な文化にたいへん興味を持っていました。熊本に滞在中、幸いにも熊本学園大学の同窓会と忘年会、他にも創価学会の新年十万人合唱などに参加できました。半年間の日本での体験は、日本人の団体の文化に対し、大きな理解と感想を抱かせるものとなりました。

この半年間、私は休暇を利用して長崎、広島、大阪、神戸、京都の各地を訪問しました。どの

都市も立体交差が縦走し、発達した交通網は渾然一体をなし、都市発展における交通問題の有効な解決となっています。中国の都市管理においても学ぶところが多い点です。

日本各地では、いつでもどこでも現代化された便利さを大いに享受しました。交通、各種情報、各種サービスなどを求めることにはなんの煩わしさもありません。しかしもう一面において街、人そして自然の調和を感じ取ることができます。熊本の野生の鴨たちが集う江津湖、東京近郊の鳥類保護園、高速道路の周辺に広がる青々とした山や茂みなどは、私たちに自然への回帰を抱かせてくれます。発展の過程においていかに環境との調和をとっていくのか、私たちもこの点を学び考えていかななくてはなりません。

日本人は、礼儀を重んじる民族です。マンションの管理人、店の店員、タクシーの運転手など皆たいへん礼儀正しく対応してくれます。

国や民族が異なるときお互いに交流し理解することが必要です。お互いに交流することで、私たちは初めてそれぞれの長所や短所を相互に知ることができ、それにより自己の欠点を克服し、他人の長所を学ぶことができるのです。日本には中国が学ぶべきことが多くあります。特に経済と管理の分野においては多くあります。

私は幸いにも今回日本の友人と交流する機会を得ることができました。私と同じように日本の友人の皆さんにも中国へいらしていただき、中国で交流をしていただき、発展を続ける中国を体験していただきたいと思います。私は、このような交流を更に進めることに努力していきたいと思います。中国でみなさんにお会いできることを願っています。

最後に、熊本学園大学の皆様のおもてなしに感謝致します。私の友人たちに感謝致します。

2002年12月30日 深圳大学にて



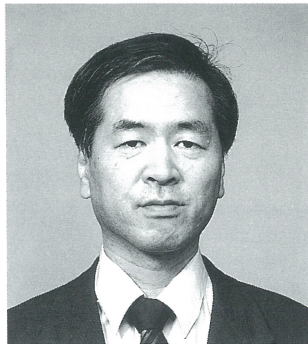
北九州市門司港レトロにて

研修団往来

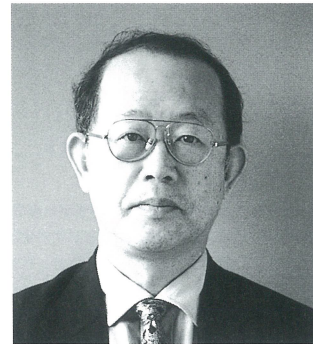
交換教員往来



チョウ エン レイ
趙 允 來 先生
(韓国・大田大学校教授)
2002年3月から1年間、交換教員として韓国語を担当



香川 正俊 先生
(商学部教授)
2001年9月から半年間、交換教員として中国深圳大学へ



船木 高司 先生
(商学部助教授)
2002年9月から半年間、交換教員として韓国大田大学校へ

2002年研修団往来

〈受入〉

研修団名	研修期間	団員数
大田大学校学生研修団	6月26日(水)～7月17日(水)	28名
大田大学校総学生会研修団	7月25日(木)～27日(土)	25名

〈派遣〉

研修団名	研修期間	研修先	団員数
経済学部外国事情研修中国コース	7月11日(木)～8月9日(金)	北京 語 言 大 学	15名
経済学部外国事情研修韓国コース	7月10日(水)～8月8日(木)	大 田 大 学 校	7名
外国語学部海外研修ニュージーランドコース	7月16日(火)～8月15日(木)	ユ ニ テ ッ ク	14名
外国語学部海外研修英国コース	7月16日(火)～8月15日(木)	ブ ラ イ ト ン 大 学	44名
外国語学部海外研修中国コース	7月12日(金)～8月9日(金)	北京第二外国語学院	55名
外国語学部海外研修韓国コース	7月11日(木)～8月8日(木)	梨花女子大学校	28名
学生自治会研修団	7月31日(水)～8月2日(金)	大 田 大 学 校	30名



海外研修 (イギリス・ブライトン大学にて)

大田大学校学生間交流体験記

経営学科 清田 篤史

【学翔学会会長】

平成14年7月31日から8月2日までの3日間、大田大学校との交流のため大学の自治会のメンバー30名で韓国に行きました。大田大学校は大田と書いて「テジョン」と呼ぶのですが韓国の大学です。福岡空港から飛行機で大体1時間半くらいで韓国に着きました。私は海外に出たのはこれが初めてなのでごくドキドキしました。韓国の空港にはすでに迎えるの学生が来ていました。その中に私がすごく仲良くなった李さんという学生もいました。

その1週間前、大田大学校からも同じく自治会の学生約30名が熊本に来て私達自治会の役員でお世話をしました。熊本学園大学の学内を案内したり、上通り・下通りアーケードに連れて行ったり、その間にとる食事にも気を遣っていました。お世話をしていてまず困ることは言葉が通じないことです。「何が食べたいですか?」と日本語で聞いてもわかるわけがありません。だから、初めはジェスチャーと単語・単語の英語で会話をしていました。しかし、それでは良く伝わりません。そこで困っていたのですが、一人だけ日本語を話せる人がいました。その人が李さんでした。私は李さんを経由して大田の他の学生とも会話をすることが出来ました。私達の受け入れはこうして無事に終えることが出来ました。

韓国では李さんが色々お世話をしてくれました。韓国語を教えてくれたり、韓国と日本の大学の違

いを話したりと良い体験が出来ました。しかし、難しい日本語を使うとわからないらしく、お互いに意見を伝えきれないところもありました。そんな時にもっと自分に話せる力があればと落ち込んでいる李さんを見て、自分が情けなく思えました。自分は韓国語どころか英語もあまり話せない。もっとしっかり英語を学んでおくのだったと思いました。後悔していてもしょうがないので言葉を選びながらも会話をしました。韓国の食卓には必ずと言っていいくらいキムチが出てくるということやちょっとした韓国語など李さんから教えてもらいました。韓国での3日間は驚くほど早く、すぐに別れの日は来ました。たった3日間だったのですが空港での別れは辛かったです。

李さん達韓国の学生は何にでも一生懸命で、それぞれが得意なものを持ち自分達の夢を叶えるために努力しています。そんな彼らと関わり影響を受けて、私にも目標が見つかりました。今、私はアパレル関係に興味があり、関連する資格を取ろうと頑張っています。李さん達に追いつけるように。

李さんとは今もメールを交換しています。私

は近い将来また韓国に行こうと思っています。出発前は海外に行くのは気が進まなかったのですが、李さんという友達が出来たから今は韓国に行くのが楽しみです。



大田スタジアムにてサッカー観戦（筆者は中央）

研修団往来

2002年国際交流往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月		
2月	羽江忠彦商学部教授帰国（大田大学校） 香川正俊商学部教授帰国（深圳大学） 大田大学校（杉原将司・今村富美子・田内敬子）、深圳大学（池田幸子・奥山一弥）、中国人民大学（富田雅子）、北京語言大学（吉武由華）帰国 ユニテック（佐藤善高・中村恵美）、大田大学校（長田真似子・安達知子・池部千夏）、深圳大学（田中尚美・宮本清香）、中国人民大学（渊上達也）、北京語言大学（中野由加里）出発	大田大学校金禧秀先生帰国 ユニテック（韓ボリー、ジョン・コリンズ）帰国
3月		深圳大学冯建民先生帰国 大田大学校趙允來先生来熊 大田大学校（李炯珍、權一訓、康安洙）、深圳大学（董琰、曾丽穎）来熊
4月		桂林（蔣麗華、王力／市派遣）、ヴェトナム国家大学（グエン・テイ・タイン・トゥイ）、リバプールジョンモーズ大学（ダニエル・バーンズ）来熊
5月	モンタナ州立大学（米田夏子・遠山涼子・林田倫子）、モンタナ大学（木下直美・森川絢子）、キャロル大学（田川貴恵・中嶋阿寿香）、セント・メアリーズ大学（飯田綾・江頭祐子）、インカーネットワーク大学（修本香織／市派遣、岡部淑子）、アワーレディオブザレイク大学（南部恵美／市派遣）帰国	
6月	リバプールジョンモーズ大学（鍋田清香・丹波美和・古川玲子）、アルスター大学（山田玲奈・大窪路子）帰国	
7月	セント・メアリーズ大学（緒方広子）、カールトン大学（是石昌樹）出発	インカーネットワーク大学（アンドレア・ガーザ／市派遣、メリッサ・サリナス／市派遣）、リバプールジョンモーズ大学（ヴィヴィ・アリスデイ、ビクトリア・チヤコースキ、ダニエル・バーンズ）、セント・メアリーズ大学（アンドレ・パーソンズ）帰国
8月	モンタナ州立大学（北野阿弓・小野千賀子・田中麻紀子）、モンタナ大学（加藤裕助）、キャロル大学（安達佳世・緒方真美）、インカーネットワーク大学（田中晶子）、リバプールジョンモーズ大学（岩下祐子・森山貴裕・黒木珠美）、アルスター大学（坂口千晴・吉井由美）出発	セント・メアリーズ大学（アリソン・ピッツ）帰国
9月	船木高司商学部助教授出発（大田大学校）	モンタナ州立大学（フィル・ジョンソン、ミノット・プライアン）、インカーネットワーク大学（オーランド・ラッキー／市派遣、カレン・ペダロザ／市派遣）、リバプールジョンモーズ大学（カレン・ホートン）、カールトン大学（ダニー・ゴーニ）、ユニテック（マックスウェル・カウデン、金美星、林滙映）来熊
10月		ユニテック（マックスウェル・カウデン）帰国
11月		
12月		

短期派遣・研修団	その他	
		1月
リバプールジョンモーズ大学、アルスター大学への短期派遣留学生出発	ユニテック・ニック、シャックルフォード先生来学 大田大学校ソフトテニス部来学	2月
リバプールジョンモーズ大学、アルスター大学への短期派遣留学生帰国	日韓文化交流基金学生派遣（松尾裕香）[3/5～3/14]	3月
		4月
	モンタナ州立大学ピリングス校マリ・クサマ先生来学 リバプールジョンモーズ大学ジョン・コリンズ先生来学 創立60周年記念式典 モンタナ州立大学、モンタナ大学、キャロル大学、インカーネットワード大学、リバプールジョンモーズ大学、大田大学校、深圳大学、北京第二外国語学院、ヴェトナム国家大学ハノイ校代表団来学	5月
大田大学校研修団来学 6/26	広西師範大学代表団来学	6月
大田大学校研修団帰国 7/17 大田大学校総学生会研修団来学 [7/25～7/27] 学生自治会研修団出発 [7/31～8/2]	経済学部外国事情研修出発 [韓国コース7/10、中国コース7/11] 外国語学部海外研修出発 [イギリスコース7/16、ニュージーランドコース7/16、韓国コース7/11、中国コース7/12]	7月
	経済学部外国事情研修帰国 [韓国コース8/8、中国コース8/9] 外国語学部海外研修帰国 [イギリスコース8/15、ニュージーランドコース8/15、韓国コース8/8、中国コース8/9]	8月
		9月
	大田大学校創立22周年記念式典訪問 [10/28～11/3] 日韓文化交流基金学生派遣（安永愛子）[10/28～11/5]	10月
	第2回大田大学校との国際学術会議 [11/1於大田大学校] ウイスコンシン大学オークレア校ロバート・ウィットコム先生来学	11月
		12月



留学生ルームでのひとコマ



お城祭→時代行列にて



学園祭～民族飯店～



学園祭～韓国～

幼稚園訪問



国際交流会館送別会にて

PHOTO



100Mレース直前

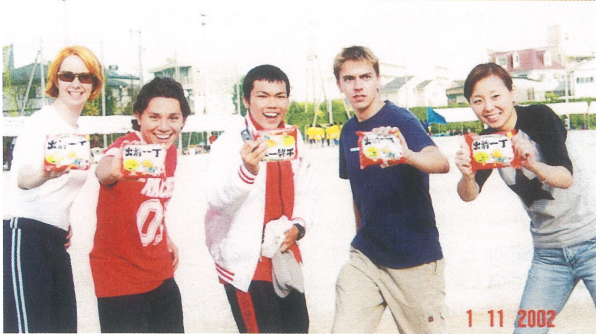
騎馬戦



留学生スポーツ交流会にて



琴演奏を体験！



賞品は「出前一丁」！



竹細工職人に見入る4人

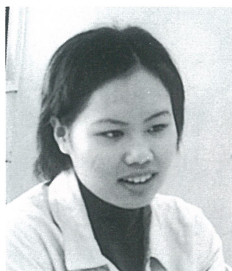


阿蘇山上で記念撮影
新入生歓迎ピクニック in 阿蘇



「テレビタ伝言板」に出演！

ALBUM



ゴ・ティ・ビイク・トウイ
経営学科1年
※ヴィエトナム国家大学ハノイ校からの2001年度交換留学生だったが、交換留学を終え、2002年4月本学経営学科に入学。

「以前は人から進められる通りに簡単な道を選んできました。でも今は自分が本当に好きなことをしたいと自分に挑戦してみるようになり、留学のお陰で初めて色々真剣に考えるようになりました。」



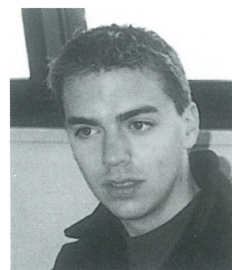
吉田 大輔
国際経済学科4年
※外資系製薬会社に就職内定。
平成14年度学生懸賞論文に挑戦、2002年入選。

「マスデンゼミで多くの留学生と接してきました。ゼミで経済学部というのにとらわれずに自由に勉強できたのが良かった。この大学に入ってこの先生に会えたことが一番良かったかな。留学はしていないけれど自分は何に対してもやる気があります。」



吉武 由華
東アジア学科4年
※北京語言大学への2001年度交換留学生。

「留学が決まって自分でもやれるのかなあと少しずつ自信がついてきて色々なことに頑張ってみようかと思いはじめました。留学中もこの時期にしかできないことをしようと毎日頑張っていました。」



フィル・ジョンソン
Phil Johnson
国際経済学科4年
※姉妹大学であるモンタナ州立大学からの交換留学生。
専攻はコンピュータ・サイエンス。

「同じ言葉と文化を持つ者同士固まっていることはいいこととは思いません。他の人を知る努力をするべきだと思います。専攻のためには日本語を勉強したいけれど、第一の目的はとにかくここに来て文化を体験したかった。」

学生座談会

一将来の夢は？

トウイ：貿易会社作りた。そのために経営学科に入って、経営の知識を一生懸命身につけようと思っている。今、勝部先生のゼミすごい勉強になりますよ。今気になるのは、古田先生のベンチャー企業論。会社を作るため、そして倒産するまでもどんなことが必要とか教えてくれました（笑）

（一同笑）

吉武：トウイさんは日本で働きたいと思いませんか？

トウイ：数年ちょっと体験してみたい。

吉武：私は中国で働きたいと思っているんですよ。日本から中国に介護用の器具とかを輸出するのがこれから先はどんどん増えるよっていう話は聞いたんですよ。それに限らず、貿易系の仕事がしたいとは思っています。外国で働きたいというと、皆に甘いと言われるんですけど。

トウイ：日本で就職は無理と友達とかたまに先生とかに言われる。でも2・3年くらいは日本の会社を経験してみたい。そして資本も集めたい。

吉田：僕はやりたいことは決まってるんです。働くところは医薬品、製薬のメーカーでその営業、MRというんですが、ロンドンにある外資系メーカーに内定をもらったんです。今は薬剤とか薬理とか薬の勉強しているけれども、その職に就いておけば人事に行ったりとか、将来色々コースが変えられるんです。今現在の目標は薬関係のことを勉強したいんですが、後々機会があれば経営とかもやってみようと思うので。まだ「こうなりたい」という先のことまでは見えていないんですけど、一応手が届く範囲のことまでははっきりと自分で決めて、進め進めという感じです。

トウイ：大輔の場合は就職決まって、勉強も一生懸命。学生の時と比べてずっと一生懸命勉強しているんじゃないですか。

吉田：そうですね、給料に反映されるとなるとやっぱり…（笑）大学ってやっぱり得るのがわからないじゃないですか、抽象的で。語学にしるなんにしる実際すれば役立つんですけどね、色んなところで。

フィル：僕はあと2年は大学で専門のコンピュータサイエンスの勉強を続けて、それから副専攻で日本語と数学を取りたい。将来は自分の会社を始めたいけれど、とりあえず良い職に就いて、その後転職してもっと面白い職を見つける。小さい会社で色々なことをやりたいかな。小さい会社の方が社員はいろいろなことをさせてもらえるから。小さい会社はうまくいかなかったらリスクも大きいけど、うまくいって大きい会社になれば高い地位に就けるし。

トウイ：私も会社を作りたけれど、ヴィエトナムでは特に女性にとってはすごく難しい。まずよい職に就いて、お金を貯めて経験を積んで、その後できれば会社を起こしたい。もし

できなければトップマネージャーとか高い地位につけるようなことがしたい。

吉田：ここですでに留学生と日本人の差があるっていうか…。日本人ではあんまり聞いたことないな、会社作るって。

トウイ：多分日本人にも会社を作りたいと思っている人もいます。でももし自分が会社を作りたいと皆に言って、実際にできなかつたら恥ずかしいから言わないんじゃない？

—今夢を実現するために努力していることは？

吉田：来年から働くので、生活のリズムを作っていることと、午前中勉強です。主に自分の仕事に就く勉強をして、あとパソコンの修得。今ホームページを作っているんですが、そのパソコンの勉強をして、夜は英語、TOEICの勉強です。あとは新聞。業界紙ですね。『薬事日報』というのがあつていいんですよ。

(一同感嘆)「おおー」

吉武：吉田くんの内容を聞くと言いづらいんですが、語学ってどのくらいしゃべれるのか聞かれても証明するにはやっぱり検定しかないんで今はその努力をしています。

トウイ：私は経営に関する、例えば簿記とかの資格をできるだけ取ろうと思っている。日本の会社で働きたいから。それから欧米圏の大学院で勉強もしたい。

それから夢の実現のためにベストな場所で職を探したい。日本とか、ヴェトナムとか…

フィル：僕は帰国してアメリカの大学でものすごく勉強した後、自分の会社を作りたい。この日本にいる間はとりあえず日本語の習得に努力するよ。将来的に日本語が必要かどうかはわからないけど、国際的なコンピュータ関係の会社で働く場合、日本はとても重要な国だからね。

—学生時代に学んだことを将来にどう活かしたいですか？

吉田：ゼミで留学生たちと接したり、留学した日本人と接したりして、自分と比べて客観的に足りないものが発見できた。やる気はあったんですけど具体的に行動するとかが最初なかったんで、ゼミを通して具体的にどんどんやっていこうということが身についたかな。

トウイ：やっぱりやる気だけでなくどういう風にやるか必要だね。

吉田：そうそう。計画性が必要。計画を立ててやるということを学んでそれを今実行してる。

吉武：私は自分に自信を持ちすぎないことですかね。何もなくなるんですよ。それが積み重なって、だんだん自分のレベル、落ちていくから。多少の自信は持ってないと続けることはできないと思いますけど、自信がありすぎるのはだめだと思います。

吉田：でも難しいよね。どっからが「自信過剰」なのか。

トウイ：もし日本の会社で働くことができたなら環境的にも慣れる。でも今勉強していることがどんな役に立つのか、今も全然分かりません。

フィル：自分は経験した全てのことが一緒に

なって人間が形作られると思う。たとえ自覚していなくても、日本語を自分の仕事に将来使うことがないかもしれないけど、でも僕の日本での経験は自分を変えるだろうし、人格を形成すると思う。

アメリカでの大学生活はものすごく役立つ。大学も最初はすごく簡単だけど、次第にどんどん厳しくなっていく。一生懸命仕事(勉強)をしなくてはならないことを学び、それが社会人になって生きるだろうね。

—最後に言いたいことはありますか？

吉武：夢は叶うと思いますか？なぜこの質問をしたかという、私は年上の人に将来のことを相談したりして、でも所詮夢は夢でしかないよ、といろんな人に言われたんですよ。でも、私は努力すれば叶うって思うんですよ。皆さんどうかと思って。

トウイ：時間とともに夢が変わってくるんじゃないですか。だから自分は、この目的のため一生懸命にやるんだったら、結局はかなうと思う。

吉田：根拠のある夢なのかそれとも漠然とした夢なのかで絶対叶え方は違うと思うんですよ。ちゃんと根拠があるんだったら多分なれると思うんですよ。

トウイ：ずーっとある目標があつて一生懸命努力すれば叶うと思います。

フィル：自分が頑張ってるようだったら、それを「夢」と言えると思う。

トウイ：(ベンチャー企業論について)あの授業、結構面白い。会社作るのにはどんな手段があり、どういうことを準備しなければならないか等が分る。ゲスト講義もあつて、実際経験がある人の話はすごく役に立つと思う。

—今日の感想をお願いします。

吉武：韓国・中国の人たちとばかり一緒にいたから、英米とかヴェトナムの方たちとはあんまり交流がなかったんですよ。今までちょっと距離を置いていたところがあったと思うんですよ。文化が違うだろうな、とか。思っていることというのは皆夢があつて努力しているというのとは一緒で、やっぱり違いはないように思いました。今日で考えが良い方へ変わったと思います。

トウイ：今日は話だけではなく、皆の意見も色々聞いて、思ったより真剣な話になって面白いと思う。色々な人の意見を知ったら自分の意見もある程度調整できる。

フィル：僕も楽しかった。早起きしてよかった(笑)。他の人の話を聞いて、自分自身について考えることができた。自分の考えを言葉にすることで、自分の考えを確認できた。

吉田：僕は予想通り、よかった。やっぱりがんばってる人もいて再確認できた。なんら差はないんだ。国が違うけども人は変わらないって。言葉の問題じゃないんだ。

トウイ：自分は自然に自分のことを言いくいんじゃないかなと思ってた。でも、実際は思ったのと全然違う。良かったと思う。

—今日はどうもありがとうございました。

「初めての高校生へのスピーチ」

トウ エン
董 琰

【2002年度深圳大学交換留学生】

今年ちょうど熊本県立第二高校が創立して四十周年になります。その学校の先生に誘われてお話することになりました。中国語でのスピーチでも恥ずかしくて緊張しますが、日本語で話をするなんて全く考えたこともありませんでした。

いよいよ、スピーチの日が来ました。ちょうど旅行して熊本に戻ってきたばかりで、途中で見たこと感じたことがたくさんあったので、それについて自分の感想を話しました。学生さんも先生方も興味深そうで静かに聞いてくれたので、前の心配がなくなって、思い切り言いたいことを言いました。最後に生徒さんと先生方に色々な質問をされ、その中でも中国の経済の発展と日中戦争に関する質問が多かったです。特に一人の先生の話によると、日本の教科書にその時期の歴史が殆どないので、彼は真実を知るために中国の20の省に行った事があるそうです。その先生の勇気に感動し、深く印象に残りました。

今度のスピーチを通して、留学前、留学計画書に書いたように少しでも中日友好のためにささやかな力を尽くした気がして、楽しかったです。



(右が董琰さん、左が曾麗穎さん)

「第二高校でスピーチをして」

ソウレイエイ
曾麗穎

【2002年度深圳大学交換留学生】

はじめて日本の高校に入ってスピーチをしたのは今年の9月30日、第二高校でのことでした。それは文化祭の一環として高校の図書室で行われた中国をテーマとした図書館祭の際でした。

その日私は学校に行く途中自分のスピーチがうまくいくかどうかや生徒達は私のテーマに興味があるかどうかなどのことを心配していましたが、高校の図書室に入ると目の前に中国の歴史人物から現代都市の様子まで宣伝する絵や生徒達の作った文章などいっぱい並んでいました。それを見て心配する気持ちとスピーチをする前の緊張感がだんだんなくなりました。これは私が生徒達が一生懸命作ったことに感動し彼らにもっともっと中国のことを教えたくなくなったからです。こういう気持ちを持って私は中国の風俗と礼儀についてスピーチをしました。その後学生達から質問をいっぱい受けましたがとても楽しかったです。生徒達からの質問が多ければ多いほど彼らが中国のことに興味を持っているあるいは中国のことに感心しているということが分かったからです。その上私と生徒達の交流もできました。

第二高校でのスピーチは私にとってすばらしい経験でした。それは私がスピーチをただだけでなく日中の学生間でとても有意義な交流会と思ったからです。

“A Visit To Remember”

Orlando Lackey オーランド・ラッキー

【2002年度インカーネットワード大学交換留学生(市派遣)
Exchange student from the University of the Incarnate Word】

Earlier in the month of October I was invited to a 6th grade class of an Elementary School, which is located across from the Kumamoto Gakuen International Residence. Upon my arrival I was greeted by the teacher of the class and was taken to the classroom where the students were waiting. When I entered the room, several students that were eager to practice their English with me greeted me. As introduced myself to them I could see in their faces that it was hard for them to understand what I was saying, but was amazed as to the effort that they put in into trying to understand what I was saying. While I was there, they taught me some things about Kumamoto and were really excited when I got to play some games with them. Overall I had a great experience visiting them and I hope that I am able to visit them once again.



日本での経験

Maxwell Cowden マックスウェル・カウデン
【2002年度ユニテック交換留学生】

このエッセイは、日本での私の経験を書くつもりです。私の名前はマックスウェル・カウデンで、23才です。私は9月6日、交換留学生として日本に到着しました。私はニュージーランドから来ました。そして、ニュージーランドで、私はユニテック工科大学で勉強しています。私の専門は日本語です。

私は車椅子を使っていますが、私なりに精一杯頑張っています。その結果、私はユニテック工科大学の三年生です。

私は交換留学生として、一ヵ月間熊本学園大学で勉強しました。私は熊本に住んでいる間、国際交流会館に住んでいました。この場所で、沢山友達に会いました。他の交換留学生と一緒に住んでいました。

私は熊本学園大学で沢山親切な人に会いました。例えば、熊本学園大学の国際交流センターの職員は非常に親切な人達でした。そして、私の先生も非常に親切な人達でした。彼らの名前は平井先生と島本先生と田崎先生と舛井先生でした。

私は熊本に住んでいる間、友達と一緒に熊本の有名な場所に行きました。例えば、熊本城と水前寺公園と阿蘇山に行きました。

全体的に、私の経験は非常に面白かったです。その結果、私はもう一度日本に来ることを希望しています。熊本ほど美しい所はない。



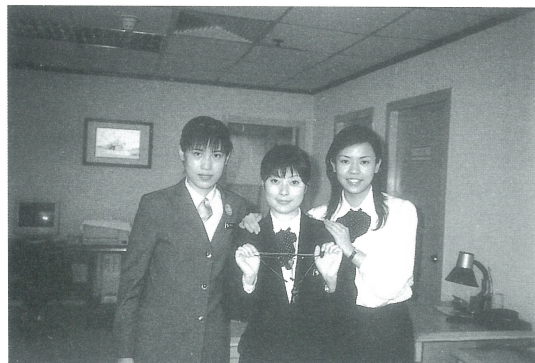
(筆者は写真中央)

中国で働くことの意義

吉田 有紀
【平成10年3月東アジア学科卒業】

私は一期生として東アジア学科を卒業し、熊本市内のホテルで約3年の勤務後、2001年9月より北京第二外国語学院へ留学しました。1年の留学後、現在北京新世紀飯店の公共関係部に勤務しています。仕事の内容は、ホテル広報誌・資料の作成、イベントの企画・運営、雑誌への広告掲載などホテルの企画、広報部門です。マカオ人の上司、2人の中国人と計4人のスタッフで運営しています。こちらに勤務するようになり、半年が過ぎ、スタッフにも恵まれ、ようやく中国で働くことに少しずつ慣れてきました。留学と違い、外国人だから言葉が聞き取れないと甘えることはできませんし、友好的に接してくれる中国人ばかりではありません。初めは、電話すらきちんと取れない、同僚とのコミュニケーションもうまくいかない、日本での仕事のやり方は全く通用しない、そんな毎日、どうしていいのかとまどい、逃げ出したい気持ちでいっぱいでした。思っていた以上に海外で働くということは大変なことだと実感し、そして何より、中国社会にどっぷりと浸かってみて、言葉の壁はもとより、中国人との国民性の違いをひしひしと感じました。同じ職場の中に、違う国民性を持つ人間が存在するわけですから、考え方に矛盾を感じることも数多く出てくることは否めません。例えば中国人からよく、日本人はどうしてそこまで熱心に働くのか、どうしてそこまでお客第一の考え方をするのか、理解できないと言われます。仕事に対する姿勢、サービスについての概念など日本人とは大きく差があるように思います。そのような状況の中で、私は中国人の意見を尊重しつつ、その中で自分の意見やどうして私達日本人がこのような行動を取るのかということとを、伝えていくようにしています。それぞれの国に独自の社会があるわけですから、日本社会の伝統が正しいと言える基準はどこにもありませんし、「郷に入るとは郷に従え」で中国人の仕事のやり方を素直に実践していくことももちろんひとつの考えです。しかし、それを敢えて主張するのは、日本人の考え方や日本社会、自負している日本人の礼儀などについてアピールする良い機会なのではないかと思うからです。嬉しいことに、今の職場では私の日本人としての意見を尊重し、見習ってくれるところもあり、海外で働くことの意義と日本人としての責任を感じています。

中国で働くことにより、留学時代には見ることができなかった、広い意味での中国の社会を肌で感じることもできたように思います。そして同時に、外から日本の社会を客観的に見ることもできました。現在の目標は、中国語の更なる習得はもちろんですが、私が中国での仕事を通して中国社会を理解していくことと同じように、仕事で知り合う一人でも多くの中国人に私というひとりの日本人を通して、これまで以上に日本社会、日本人について理解を深めてもらえればと思っています。



職場の同僚と(筆者は中央)

留学という経験

岡本 勇樹

【平成14年3月経営学科卒業】



チベット、ラサの行きつけ喫茶店にて（筆者は写真左）

私は在学中、2年次・3年次とそれぞれ休学してイギリスに半年、中国に1年と留学し、また韓国にも短期留学した経験を持っています。お金が貯まれば海外に行き、資金が切れた時点・場所で資金を稼いで、というような大学生生活を送っていました。一人旅などもやっていたから、殺されそうになったこともありました。大学時代本当にいい経験ができたと思います。

現在、留学を目指している方はたくさんいると思います。それを将来の仕事で生かしたい、就職活動で武器にしたい、ただ何となく留学してみよう、といろいろな考えで行くと思いますが、一つ言えることは語学はただの道具に過ぎないという事です。いくらTOEICで900点を出しても仕事ができなければ、その道具を使う機会はありません。私はまだ仕事を覚えるのでいっぱいいっぱいですが、私が配属された部でも英語ができるできないに関わらず、それぞれ国内・海外を飛び回っています。

ですから私がひとつ助言できることは、留学中、語学よりもまず人間性を上げる努力をして欲しいです。私が何度も海外に行くようになったきっかけは、色々な理由がありますが、やはり価値観が違う様々な人との出会いです。留学すると、たまに全く日本人と話さないような人を見かけますが、本当にもったいないことだと思います。仕事でも遊びでも人生の中で人脈というものは語学よりもっと大事なものです。特に日本人の人脈は仕事でも私生活でも大きな影響を与えるものとなります。日本人としか話さない人も問題ですが、外国人・日本人と分け隔てなく自分とまったく違う色々な経験をしてきた人と話すのは、自分の価値観を大きく広げることができるチャンスだと思います。

留学経験があるということは、その言葉話せるという前提で採用されるのですからもちろん勉強も必要です。要はバランス感覚を持つことです。常にアンテナを高くし、刺激を受け、そしてまた新たなことにチャレンジして下さい。人生の中で留学というのはひとつの通過点にしか過ぎません。しかし、その通過点の中でどれだけ経験ができるかは全て自分次第です。皆さんが実りある留學生活を送れることを祈っています。

もし願った通りになれないときは？

ユウジンボク
劉 眞 福

【2000年3月～2001年2月大田大学校交換留学生】

私は目を閉じて上を仰ぐ？と描かれる未来があります。そのため今私が日本にいるかもしれません。

留学って決して楽ではありませんが、楽しいです。それが魅力だと思いますし、「これからの自分の人生もそう過ごしたい！」という気持ちまで持たせてくれます。その事は留学を通して得た教訓と言えるでしょう。

留学をはじめた熊本学園大学時からカメラは私の傍にありました。それが他の人には何気ないものであっても、特別な日でなくても・・・いろいろな事で記念を創ってきた気がします。たまにアルバムをめくるとそこには《25歳のワタシ》が微笑んでいます。この世の流れに照らされるよりは、私の生涯の一時が見えるのです。そしてある未来、ニコッと笑うために今を楽しみたいと思うのです。

外国での生活って特別？です。周りと違う生き方をしても批判されないし、あるときは同じくしようとすると思う目で見られるときもあります。どちらかという私はその特別さを楽しむほうなんです。それはある意味での勇気だと思いますし、留學生活の特別さからうまれたもので、私が私でいられる力のようなのです。

外国で勉強しているといずれは国に帰っていい職につく事をなんとなく期待されます。それが重荷になってますます不安になることもありました。高学歴失業者が増えている最近、もし願った通りになれないときはどうするかと真剣に考えざるを得なかったのです。

しばらくは日本で自分をもっと研ぎたいと思っていますが、いつかどの仕事に就いても満足する自信が今はあります。きっと頑張った上での成果に間違いのないからです。もしも今まで勉強してきたことが活かされ難い状況になったとしても自分が出来る事（格好？悪くても）に目を向けたいと思います。成功ばかり夢見た昔の私には出来なかった発想ですが、未来のため過去を犠牲にしてきたのではなく、自分なりの最善をつくし頑張っ、楽しんできたのならその後のことには素直になれる気がします。留学という特別な身分が私に教えてくれた事は世間に流されない『勇気』なのです。



同志社大学明德館前にて（筆者は写真右）

Things I learned from KGU

Holly Olson ハリー・オルソン

【1996年9月～1997年7月米国モンタナ州立大学交換留学生】

Hello. My name is Holly Olson. I was a student at Kumamoto Gakuen University from 3 September 1996 to 31 July 1997. I came as an exchange student from Montana State University.

When I was an undergraduate, I specialized in History and Political Science. Regarding History I was interested in Asia and in particular about Japan Pre-Meiji Era and Imperial Japan. As far as Political Science, I was studying political theory and how it applies to our everyday life in our respective countries and how our countries associate with each other in our constantly changing global community. While I was studying I wrote four theses: Aristotelian Effects of the Declaration of Independence; Russian Occupation of the Northern Territories (北方領土); Japanese Occupation of Manchuria (満州区); and Rabaul, an Oral History of WWII.

As an exchange student, I had the opportunity to do a little teaching, but as you can see, I was busy writing reports, so I didn't teach as much as the other students, so I was always broke. But the little that I did do helped me to see that this was something that I would enjoy doing as well. When I returned to Montana, I took a special course to teach composition and speech classes which allowed me to get practical teaching experience while I was still a student. I was given all the foreign students. I even started to get my Master's Degree there after, however the Board of Regents intervened and that was the end of that...and I found myself back here in Kumamoto.

After four years of a language school, I started working here. I was incredibly excited to have this opportunity as I would finally be able to give back some of the great things that this school had given to me over the years. KGU taught me an insurmountable amount of things about life, culture (my own and Japanese) and of course the Japanese language itself. I find all the students so pleasurable and the fact that I can come to work and see one of my dearest friends in the world sometimes is an added bonus. Although at times living in Japan is very difficult, I wouldn't change it for the world.

こんにちは。私はハリー・オルソンといいます。私は1996年9月から1997年7月まで、モンタナ州立大学からの交換留学生として熊本学園大学で勉強しました。

学部生の時は、歴史と政治学を専攻していました。歴史ではアジアの歴史、特に幕末から明治にかけての日本の歴史や日本の帝国主義に興味がありました。政治学の分野では、政治理論と、それが私たちのそれぞれの国の日常生活にどのように適用されているか、またこのように絶えず変化し続けるグローバル・コミュニティにおいてどのように国同士が付き合っているのかを学びました。その間、「独立宣言に見られるアリストテレスの影響」「ロシアの北方領土占領」「日本の満州占領」「ラバウルにおける第二次世界大戦の口述歴史」という4つの論文を書きました。

交換留学生の時は、教えるというアルバイトの機会に恵まれましたが、お分かりのようにレポートを書くのに忙しくて他の留学生ほど教えることに時間がとれず、いつもお金がありませんでした。しかしほんの少しの機会でも、私に教えることの楽しさを気付かせてくれました。モンタナに戻ってからは、作文指導の特別授業やスピーチクラスを取りました。それらのクラスで教育実習があったからです。私は全ての外国人留学生の担当を任されました。その後大学院の修士課程に進学しましたが、大学評議会の介入で終了、そして熊本に戻ってくるようになりました。

4年間語学学校で教鞭を執った後、私は熊本学園大学で働き始めました。この大学が私に与えてくれたもののお返しを少しでもできるこのような機会を得られたことは、私にとって非常に嬉しいことでした。熊本学園大学は、人生、自国および日本の文化、そして日本語そのものについての言葉にできないほどのことを教えてくれました。皆とても楽しい学生ばかりで、仕事に来た時に世界でもっとも親しい友人の一人に会えるという事実はちょっとしたボーナスとも言えます。日本で暮らしていると時々非常に大変な時もありますが、何物にも代え難い素晴らしいものです。



日本語能力試験直後のストレス発散（筆者は写真中央）

国籍対国籍ではなく、人対人の交流

国際経済学科 岡部 淑子

【2001年8月～2002年5月交換留学生として米国インカーネットワーク大学に派遣】

「これからどうしよう。誰も知らないのにこんなところで。」現地時間8月8日夜。サン・アントニオ空港に到着したときにまず困ったことは、連絡しておいたはずなのに私に迎えがなかったことである。途方にくれた。

しかし、“捨てる神あれば拾う神あり”で、一人の日本人女性が私に声をかけてくださった。ヒロコ・フェイさんという方で、私がたまたま乗り合わせていた熊本市派遣の高校生を迎えに来ていらしたのだ。事情を話すと「それじゃあ私の家に泊まりなさいよ。回りを不安そうにきょろきょろしていたから声をかけたの。」とおっしゃった。

結局、ヒロコさんとの出会いがなければ、今思い起こす充実した留学中の思い出はなかっただろう。彼女は自分の通う教会を紹介してくださった。元来、人と話すのが苦手だった私は、それを克服しようという意味合いも込めて、人の集まる教会に通うように心がけた。「信者でもないくせに」と思われることを気にかけていたが、みんなが私を優しく迎え入れてくれた。英語でうまく表現できないことがあったり、言葉に詰まったりしても最後まで熱心に聞き入れてくれた Terry と Paige。「欧米人は、アジア

人のことを嫌っているのではないか」という根拠のない私の先入観を覆し、学校が休みになると必ず「みんなで何かしなきゃね。」といい、買い物やドライブをし、そして日本食を一緒に食べた Erika と Beth。その他日曜学校の仲間とはキャンプやロッキー山脈でのスキー旅行で寝食をともにした。

同時に、よい日本人と出会うきっかけでもあった。熊本市派遣で同じインカーネットワーク大学に通った修本香織さん・宇都美由紀さんとは常に英語でしゃべった。たとえそれが3人で行ったリバーウォークやダウントウン、モールへの散策であろうと、学食での食事の間であろうと、電話で話している間であろうと。初め私には照れがあり、英語で話しかけられると怪訝そうな顔をあらわにし、日本語で返していた。ところが私も次第に会話力を伸ばしたいと思うようになり、日本人間でも英語のみでの会話に心がけた。またそれは多くの国籍の人を話の輪に誘うのに効果的手段でもあった。彼女たちは、私にとって、ホームシック、ジャパニシックをともに乗り越え、試験時の困難を励ましあい、学習面で互いを触発できる大切な友人だ。

私は今回の留学で英語を学ぶというより、英

語を駆使して多くのものを吸収した。新しい場所では、どんな人に会えるんだろう、どんなものに出会えるんだろうと感じられるようになり、自分の成長を実感する。これからも英語に限らず語学を学び続けることで、自分の活動範囲を広げ、知識や異文化への理解を広めていきたい。



教会で友人たちと（筆者は左から3人目）

留学生生活を振り返って

英米学科 江頭 祐子

【2001年8月～2002年4月交換留学生としてカナダ・セント・メアリーズ大学に派遣】

私が9ヶ月間カナダでの留学生生活を通して、改めて深く感じたことがひとつあります。それは、英語という言葉ひとつで世界中のいろんな人々と意思疎通ができ、お互いの文化や価値観を知ることができるという素晴らしさです。カナダは移民を積極的に受け入れる国ということで知られているように、私が留学中9ヶ月間お世話になったホームステイ先の近所にはカナダ人のみならず、世界のあらゆる国から移民してきた人たちが住んでいました。韓国、インド、イラク、エチオピア、アイルランド、ポーランドなど10カ国以上の異なった文化背景を持つ人々が集まっており、これこそまさに小さな多文化的社会の地域と言えます。この近所の人々とは各家庭でのホームパーティーを通して親睦を深め、とても仲がよく和気藹々とした地域でした。ホームパーティーでは、自分たちの母国の伝統的な料理をそれぞれが持ち寄って、いろんな国の料理を楽しむことができ、各国の食文化までも知ることができました。私のホームステイ先でも、カナダ人のホストマザーをはじめ、ハウスメイトである中国人や韓国人の生徒と一緒に生活できたことも、2度とない貴重な経験だと思います。

カナダに行き、最初の4ヶ月の間は英語の語学学校に通って英語を集中的に勉強しました。その一方、課外活動として先生たちや何十カ国というあらゆる国からの生徒たちとともにアイスホッケーなどの試合を観

戦したり、感謝祭やクリスマスなどのカナダの年中行事をみんな一緒に祝ったりと、自分と異なった文化背景を持つ生徒たちと交流を深めながら、徐々にカナダでの生活に馴染んでいきました。残りの4ヶ月間は、大学の授業を履修することができましたが、学部の授業は語学学校での授業のレベルとは大きくかけ離れていて、とにかく授業についていくことに必死でした。けれども、私が以前から興味があった心理学の授業を履修し、専門的に勉強することができて、日本の大学とは異なった講義を受けることができたこともまたとない貴重な時間だと思います。

9ヶ月間の留学を終えた今、カナダでの留学生生活を振り返ってみると、もちろん実際に辛く苦しいことはたくさんありました。けれども、今となって自分の中に残っているものは留学先で学んだ知識と楽しい思い出ばかりで、そこで得たものはここでは語るができないほどたくさんあります。大学在学中にこのような素晴らしい機会を与えてくださった学校側、お世話になった国際交流センターのみなさん、そして私の家族に心より感謝しています。



語学学校のルームメイトと（筆者は前列右から3人目）

ニュージーランド留学

英米学科 上之原 俊介

【2001年2月～12月交換留学生としてニュージーランド・ユニテックに派遣】

留学しようと思ったのは、外国に住めば自分の人生が180度変わるのではと期待したからです。しかし、実際は30度くらいでした。と、書くともニュージーランドって楽しくなかったのか？と思われそうですが、本当に面白い国でした。

学園大学の学生が留学するユニテックという工科大学は緑が多くきれいな学校です。先生たちは教育熱心で質問があれば授業中以外でも一生懸命教えてくれるので留学先としては申し分ないです。英語の実力も上がること間違いなし。実際、僕も初めて学校に行った日に「apple juice」が通じなくて「マジか？」とショックをうけていたのが、日本に帰る頃にはアップルでもオレンジでも注文できるようになりました。

ニュージーランドで一番印象的だったのがバスです。乗客は小さい子供からお年寄りまで降りるときに「thank you!」とか「cheers!」とお礼を言います。これが僕にはとてもフレンドリーに感じました。運転手は個性的な人が多くバスの中にラジカセを持ち込み自分の好きな音楽を聞いていたり、目的地がよくわからずに近くでおろしてくれるように頼むと停留所でないと「ここだよ」って止まってくれたりしました。時間通りに来ることは決してないが、そのぶん親切な人が多かったです。ニュージー

ランドでバスに魅せられた僕は熊本のバス会社に就職することになりました。

小さい頃から剣道をしていたので友達づくりのためにと思って剣道場に通いました。多国籍の剣道場でオランダ人やフランス人、韓国人などいろいろな国の人と練習できたことはいい経験になりました。スポーツや習い事を通して交流すれば、仲良くなりやすいので留学中はおすすめです。特に日本の伝統文化に精通している人はラッキーですよ。「教えてくれ」とか「どうすれば上手くなるの?」と聞かれば悪い気はしないのです。

ニュージーランドで11ヵ月すごしてとても満足感があります。留学中は楽しいことばかりではなかったけど、苦しいことも辛いことも全て自分のためになったと思えるからです。外国に住むことで日本を外から見ることができ日本への関心が強くなったこと、様々な国の人と出会い話をすることで視野が広がったことが留学前と比べると最も変わった部分だと思います。また、友達づくりのため英語の勉強のためと思って剣道場に通ったり、イベントに参加したりしたことで積極性を身に付けました。これから社会人になりますが、留学で学んだことを肝に銘じて頑張っていこうと思います。



仲の良かったクラスメイトの2人（筆者は右端）

韓国留学を振り返って

東アジア学科 田内 敬子

【2001年3月～2002年2月交換留学生として韓国大田大学校に派遣】

2001年3月、初めて韓国、釜山港に到着した日のことを思い出します。その時私は、自分の体重ほどもある荷物を抱え死にそうになっていたのですが、港や駅で階段に遭遇する度、通りがかった韓国人の方がトランクを担いでくれて大変感動したことを今でも覚えています。それから1年間、多くの人々と出会い、様々な経験をする中で、数え切れないほど韓国人の情に触れました。

私は韓国での夏休みにソウルの友達の家の一ヶ月間ホームステイをさせてもらったのですが、そこで気付かされたのが家族の大切さです。両親の前でも自然に敬語を使う友達を見て、とても新鮮な気分になりましたし、日本と違って家族同士で抱擁を交わす行為が多いので、はじめをつけながらも家族の温かさがあって本当に羨ましく思いました。韓国人の情の深さは、この家族愛が基になっているのではないのでしょうか。

また、よく考えさせられたのが歴史の認識の違いです。私は歴史に関して曖昧な知識しかなかったのですが、戦争資料館があるソウルの西大門刑務所や天安の独立記念館を訪れて、初めてその行為がどれだけひどかったのかを思い知らされました。そこには日本人が韓国人にした残虐的な行為が写真や蠟人形によって再現され

ており、日本人にとっては本当に胸が痛くなる場所だったのですが、何よりもそのような歴史をよく知らないで韓国人と接していたことがショックでした。韓国では軍隊制度や南北問題など、今でも日常の中に過去の傷が大きく影響しています。せめて日本人として日本が過去にしたことを正しく知ることは、韓国人に対しての礼儀だと思います。

最後に、留学は考え方を広げる素晴らしい機会にはなりますが、問題はそこでどういう意識を持ってどのように行動するかだと思います。外国にいる以上、日本での常識が通用しない場面も多くありますし、そのために自分の意思をはっきり持つことが重要となってきます。私は1年間という限られた時間で、とにかく韓国でしかできないことをしようと必死でした。そのため、一人の時も韓国内を旅行したり、毎朝の日課で山登りを始めたり、キムチ工場に行ったりと、無理やりに忙しく行動していました。今思うと少々焦りすぎたようにも思いますが、それが結果的に大きな自信となりましたし、行動の先にはまた新しい出会いがあるので、人との交流を心から楽しめるようになりました。

韓国での1年間は私の人生の中で大きな財産になると確信しています。



大田広域市鷄竜山にて留学生達と（筆者は左端）

桂林で得るもの

東アジア学科 枝村 邦昭

【2001年9月～2002年8月熊本市派遣交換留学生として中国広西師範大学に派遣】

【環境編】

私は、熊本市の派遣で中国は桂林に一年間留学した。これは熊本市が二年に一回、国際交流事業として派遣するものであり、派遣される学生にはそれなりの義務と責任がついてくる。しかし普通の留学では経験できないようなことも体験できる、有意義な留学でもある。

「桂林山水天下に甲する」と謳われる風景と、中国特有の雑多な町並みが混在する都市桂林。歴史ある広西師範大学で一年間、中国語を学びながら暮らすわけだが、基本的にその生活、活動は自分の自由意志の下でできる。派遣留学生としての義務の一面として、毎月の熊本市への定期報告、桂林市での月に一度の奨学金の受け取り及び挨拶、桂林市主催の行事への参加、通訳や日本の紹介などが挙げられる。また、旅行中は定期的に熊本市と桂林市の両方に連絡をしなければならない。しかしこのような経験は、とても私にとってよい体験となった。特に行事への参加、通訳の経験などは、自己の中国語能力を高めるとともに、日本という母国への理解、再発見、さらに自分の考えの再整理などができるようになる。

留学中には桂林市の計らいで、桂林市の役員に引率されて二回ほどの旅行へ連れて行っていただいた。旅行先の市の人々から接待を受け、その人たちからたくさん話を聞くことができた。その人たちの話は、経済、環境、国際交流、歴史や街の人々の生活にまで及び、公務員という立場の、社会人の意見が聞くことができたので、とても勉強になった。それ以前に、アメリカ人やタイ人と旅行したが、そのときは違う文化を背景を持つ人たちから見た中国、その意見を聞くことができ、とても新鮮に感じた。そしてこの旅行では中国人から中国について真剣な話を聞き、また一味違う印象を受けた。よく留学したら視野が広がると聞かすが、この留学では本当にいろんな角度から中国社会を見ることができ、視野をより多く広げられた。

このほかにも桂林市主催の国際フェスティバルや、国際環境会議に出席し、中国の地方行政や町おこしに触れ、日本へホームステイする高校生の団体への日本の紹介をすることができた。広西師範大学でも少数民族の村でのホームステイや、日本文化の紹介など多くのことを体験させていただいた。

このように多種多様な経験ができる留学は私にとって最高のものであった。熊本市の派遣員として緊張感ある生活も送った。実際には堅苦しいものではないが、自己責任を明確に意識できるのも特典の一つだと思う。一年間、桂林市で過ごしたことは忘れられないものであり、これからの私にとって大切な経験である。一味違った留学を望む人には特にお勧めの留学である。

【ハプニング編】

留学して二ヶ月が過ぎようとしていた日曜の朝、突然見知らぬおじさんたちが部屋に乱入！訳も分からぬうちに工事を始めた。留学生寮

のドアの改装工事が予定されていたらしいが、詳しいことはまったく知らされていなかった。そしてその日の夜は全てのドアが、玄関さえ無い状態で一晚過ごさなければいけなかった。本当に夏でよかった。

留学中は楽しいことや、ハプニングの連続である。私は幸いにして危険な目にはあわなかったが、カップラーメンを盗まれたり、自転車を盗



中国人の友人たちと桂林の公園で
(筆者は前列中央)

まれたりし、旅行中にはパスポートを警官に渡したままバスが出発してしまい、大慌てしてしまった。中国人にだまされて、十倍の料金をとられそうになり、クラスメートとともに喧嘩したりもした。日常生活では、クラスメートや先生と映画を見たり、麻雀したりしながら遅くまで語り合い、中国人と街へ遊びに行き、買い物技術を盗んだり、楽しく過ごしていた。

このような生活や、ハプニングの中で学ぶこと、感じることはたくさんある。日本では知りえず、短い海外研修でもわからなかった、本当の現地の人の生活、文化、考え方。あるいはほかの国から来た留学生の、違う文化を背景を持つ人たちの考え方。そんなものが毎日、私の中に自動的に吸収されていく。特に私は外国人が少ない土地という条件のもと、外国人同士で仲良くなることも、中国人と親しくなることもできた。そのおかげで常日頃から、中国人は珍しい外国人に対し、積極的に関わりを持ちたがり、外国人同士でも盛んに交流をはかっていた。だからこそ見知らぬ中国人から突然、電話があり、「日本語を教えて」と言われたり、お酒を介して馬鹿騒ぎしたりすることから友情を育むことができたのだろう。

最後に私が留学に対して感じたこと、これから留学しようと考えている人たちに伝えたいのは、留学に際して、留学自体を目的とせず、明確に一つの目的を持って望んだほうが良いということである。留学中は普通に暮らしていても語学能力は上達する。普通に暮らしていても日本にいたときよりも多くのことを感じ、考える。ただそれで満足せず、何か自分にとって大切な経験をもうひとつ勝ち取ってきてほしいと思う。本気で語学を勉強し、誰にも負けないほど上達しようとか、ボランティアに精をだすとか、自分なりの目的をひとつ見つけて留学してほしい。精神的に何かを掴み取るのも、視野を広げるのも大事だが、実際に経験として将来につながるものを掴み取ってきてほしい。

2002年度出身国(地域)別外国人留学生数

	学部留学生 Undergraduate						研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate			交換留学生 Exchange	合計 Total
	1年	2年	3年	4年	5年	合計		1年	2年	合計		
中国 China	14	10	10	6	1	41	7	2	2	4	4	56
韓国 Korea											3	3
アメリカ U. S. A.											2	2
カナダ Canada											2	2
イギリス U. K.											2	2
ヴェトナム Vietnam	1					1					1	2
インドネシア Indonesia											1	1
合計 Total	15	10	10	6	1	42	7	2	2	4	15	68

2001年度本学留学生の奨学金受給実績

奨 学 金		応募	採用
1. 私費外国人留学生学習奨励費	学部留学生	30	9
	大学院生	5	1
2. 熊本県外国人留学生奨学金	学部留学生	14	7
	大学院生	2	1
	学部研究留学生	0	0
3. コーターリー壽崎奨学金	学部留学生	14	8
	大学院生	0	0
	学部研究留学生	0	0
4. 在熊外国人留学生ライオンズクラブ 奨学金	学部留学生	5	2
	大学院生	0	0
	学部研究留学生	1	0
5. コーターリー米山記念奨学金	学部留学生	0	0
	大学院生	4	1
6. 肥後銀行国際交流奨学金	学部留学生	11	2
	大学院生	3	0
7. 国内採用による国費外国人留学生	学部留学生	0	0
	大学院生	6	0
8. 公益信託水野弟次郎記念留学生奨学基金	大学院生	4	1
9. 平和中島財団外国人留学生奨学金	学部留学生	4	1
	大学院生	3	0
採用者合計			33

各種奨学金受給者合計

学部留学生	29名
大学院生	4名
学部研究留学生	0名
合計	33名

2001年度本学学生への交流の主な案内

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生の会	熊本YWCA	日本の家族紹介 行事への案内と招待	年間を通じて随時 入会申込み受付
年間 中国映画上映会	熊本県日中友好協会青年部	年間4回の中国映画を無料で上映	
新入生歓迎ピクニック	熊本学園大学第一部 学生自治会	新入生歓迎の大学行事 (南阿蘇へのバスハイク)	4/14
人形劇団への参加	熊本たけのこ会	ボランティア人形劇サークル	随時受付
第14回留学生交流会	国際ロータリー第2720地区ロー ターアクトクラブ	大分県の主催によるスポーツ交流会	5/7
日本語クラスのフィールドトリッ プ1		清和文楽の鑑賞と通潤橋めぐり	6/6
APEC 関連事業 「留学生討論会」	APEC 推進協議会	在熊の留学生と日本人学生との討論会	7/7
第5回九州アジア大学	九州アジア大学実行委員会	2001年は大分県を会場として5日間の 留学生、日本人大学生の交流研究会	7/31~8/4
第14回 JAPAN TENT 世界学生 交流いしかわ2001	JAPAN TENT 開催委員会	石川県民、世界各国からの留学生との 交流、ホームステイ	7/27~8/3
甲佐町平成13年度 国際交流企画	甲佐町教育委員会	甲佐町の皆さんとの登山や「鮎まつり」への参加	7/25
熊本 YEG 国際交流 マリンスポーツ大会	熊本商工会議所青年部	熊本商工会議所の青年部会員との交流	8/5
第23回北海道国際交流のつどい	北海道国際交流センター	ホームステイ交流、地域交流、学校交流	8/6~10
火の国まつり	熊本市	おてもやん総踊り参加	8/12
日本語クラスのフィールドトリッ プ2		川尻のくまもと伝統工芸会館見学およ び和菓子作り	11/30
全国邦楽コンクール	全国邦楽コンクール実行委員会	琴、尺八、三味線、琵琶などの演奏会	10/28
くまもとお城まつり	日本現代和装研究所	きものを着て、お城散策	10/28
体育祭	体育常任委員会	体育祭への種目参加	10/31
在熊外国人のための貿易入門講座	JETRO 熊本	熊本で初めての貿易入門講座	9/20
小国の小学校訪問	小国地球人物語21市原小学校	市原小学校の子供たちとのホームステ イ交流	
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	外国人留学生の模擬店を出店	11/1~11/3
高校生とのボーリング大会と料理 交流会	桂熊会	熊本市と桂林市との高校生交流から発 展した学生交流	11/3
くまもとお城まつり	熊本市	時代行列への参加	11/5
日本茶インストラクター協会熊本 県支部	外国人のための日本茶セミナー	日本茶の知識を外国人へ紹介する活動	11/23
スポーツ交流会	熊本学園大学学生議会	本学日本人学生と留学生とのスポーツ 交流と懇親会	11/24
甲佐町 高齢者大学	甲佐町中央公民館	高齢者大学でのお話にて2名の学生さん が参加	11/16
熊本の企業人と留学生との懇談会	熊本留学交流推進会議	企業人を囲んでの懇談会と昼食会	12/8
イヤーエンドパーティー	熊本市国際交流振興事業団	市民とのパーティー交流会	12/7
日本語クラスのフィールドトリッ プ3		清和文楽館と酒蔵めぐり	1/17
在熊外国人との新年会	熊本県立大学国際倶楽部	熊本在熊大学の留学生の集い	1/20
第8回米国人留学生との交流会	熊本日米協会	米国人留学生との交流会	1/28
第17回国際理解懸賞作文コンクール	熊本県国際交流研究会、熊本コ ネスコ協会、財団法人 熊本県 青年会館	本学からの応募作文が最優秀賞を受賞	
第4回在熊留学生の主張	熊本グリーンロータリークラブ	在熊留学生の日本語による弁論大会	2/9
第20回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国の旧暦のお正月「春節」のパー ティー	2/22
第29回ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	熊本の文化財見学(人吉)	3/17
異文化理解教育による小学校、中 学校の訪問	小天東小学校 大江小学校 帯山西小学校	9月 1月21日 2月7日	

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

2002年1月～2003年12月

国際交流委員長 Chair	中野裕治	NAKANO, Hiroharu	
商学部 Faculty of Commerce	喬晋建	QIAO, JinJian	土井文博 DOI, Fumihiro
経済学部 Faculty of Economics	金栄録	KIM, Young Rok	慶田 收 KEIDA, Osamu
外国語学部 Faculty of Foreign Languages	西紀昭	NISHI, Noriaki	向井久美子 MUKAI, Kumiko
社会福祉学部 Faculty of Social Welfare	伊藤良高	ITO, Yoshitaka	井上勝子 INOUE, Katsuko
国際交流センター事務室 Office of International Programs	田中和穂	TANAKA, Kazuho	喜佐田知子 KISADA, Tomoko

OFFICE STAFF MEMBERS

国際交流センター事務室職員

室長	田中和穂	TANAKA, Kazuho	
国際交流係長	喜佐田知子	KISADA, Tomoko	英語圏全般
留学生係長	田中久博	TANAKA, Hisahiro	韓国、学部研修、国際交流会館
	切通しのぶ	KIRITOSHI, Shinobu	中国、学部研修、私費留学生
	矢澤恵子	YAZAWA, Keiko	英語圏、学部研修
	大澤菜穂子	OSAWA, Nahoko	英語圏
	甲斐千絵	KAI, Chie	一般
	野口末男	NOGUCHI, Sueo	国際交流会館（事務室）（～2003年3月）

OFFICE HOURS

窓口時間

平日	Monday-Friday	9:00～12:30	13:30～17:00
土曜日	Saturday	9:00～12:30	

CONTACT ADDRESS

お問い合わせ先

〒862-8680
熊本市大江2丁目5番1号
熊本学園大学 国際交流センター事務室
TEL 096-366-3230（直通）
FAX 096-372-4112（専用）

Office of International Programs
Kumamoto Gakuen University
2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL +81-96-366-3230
FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

U R L : <http://www2.kumagaku.ac.jp/office/kokko/home/home.html>



〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
電話(096)364-5161
<http://www.kumagaku.ac.jp>